

■事業の概要

1. 管理運営全般

(1) 理事会及び評議員会の開催状況

令和6年度の理事会及び評議員会は、次のとおり開催されました。

ア. 理事会

開催日	議事内容
令和6年4月1日	第1号議案 理事長の選任について 第2号議案 監事候補者の選出（案）について 第3号議案 法人本部長の選任（案）について 第4号議案 理事長職務代理者（案）について 第5号議案 理事の競業について 第6号議案 関西医療大学名誉教授の称号授与（案）について
令和6年5月25日	第1号議案 令和5年度事業報告（案）について 第2号議案 令和5年度収支決算（案）について
令和6年5月25日	第1号議案 関西医療学園専門学校学則変更（案）について 第2号議案 関西医療学園規程の改正（案）について
令和6年8月3日	第1号議案 学校法人関西医療学園寄附行為の変更（案）について 第2号議案 令和5年度 関西医療大学ガバナンス・コードの遵守と取組状況に関する報告書（案）について 第3号議案 関西医療大学ガバナンス・コードの改正（案）について
令和6年12月21日	第1号議案 令和6年度補正予算（案）について 第2号議案 関西医療学園 事務組織規程の改正（案）について
令和7年3月29日	第1号議案 令和7年度事業計画（案）について 第2号議案 令和7年度当初予算（案）について 第3号議案 学校法人関西医療学園中期計画＜2025年度～2029年度＞（案）について 第4号議案 関西医療大学ガバナンスコードの更新について 第5号議案 関西医療学園規程の改正および制定（案）について 第6号議案 関西医療大学学長の選任（案）について 第7号議案 関西医療大学名誉学長の称号授与（案）について 第8号議案 職員退職功労金の支給について 第9号議案 関西医療学園名誉理事の委嘱（案）について 第10号議案 関西医療大学名誉教授の称号授与（案）について 第11号議案 令和7年度役員賠償責任保険の継続について 第12号議案 関西医療大学大学院研究科長、大学保健医療学部長、大学保健看護学部長、大学図書館長および大学附属保健医療施設長の選任（案）について 第13号議案 関西医療大学副学長の選任（案）について

イ. 評議員会

開 催 日	議 事 内 容
令和 6年 4月 1日	第1号議案 理事の改選（案）について
令和 6年 4月 1日	第1号議案 監事の選任（案）について
令和 6年 5月25日	第1号議案 令和5年度事業報告について 第2号議案 令和5年度収支決算について 第3号議案 関西医療学園専門学校学則変更（案）について
令和 6年 8月 3日	第1号議案 学校法人関西医療学園寄附行為の変更（案）について 第2号議案 令和5年度 関西医療大学ガバナンス・コードの遵守と取組状況に関する報告書（案）について 第3号議案 関西医療大学ガバナンス・コードの改正（案）について
令和 6年12月21日	第1号議案 令和6年度補正予算（案）について
令和 7年 3月29日	第1号議案 令和7年度事業計画（案）について 第2号議案 令和7年度当初予算（案）について 第3号議案 学校法人関西医療学園中期計画＜2025年度～2029年度＞（案）について 第4号議案 関西医療大学ガバナンスコードの更新について

(2) 監査の実施状況

令和6年度においては、監事監査および監査法人による会計監査ならびに内部監査委員による内部監査を次のとおり実施しました。

ア. 監事監査

開 催 日	監 査 内 容
令和 6年 4月 1日	理事会・評議員会に出席
令和 6年 5月13日	令和5年度計算書類および財産目録（監査法人業務執行社員が同席）、理事の業務執行状況を確認
令和 6年 5月25日	理事会・評議員会に出席
令和 6年 8月 3日	理事会・評議員会に出席
令和 6年11月18日	令和6年度上半期の予算の執行状況及び理事の業務執行状況を監査
令和 6年12月21日	理事会・評議員会に出席
令和 7年 3月29日	理事会・評議員会に出席

イ. 監査法人による会計監査

実施日	監査内容
令和 6年 4月 1日	現金等実査（残高確認）
令和 6年 4月26日	令和5年度計算書類（残高確認、収入支出関係、固定資産）
令和 6年 4月30日	令和5年度計算書類（残高確認、収入支出関係、固定資産）
令和 6年 5月 8日	令和5年度計算書類（残高確認、収入支出関係、固定資産）
令和 6年 5月10日	令和5年度計算書類（残高確認、収入支出関係、固定資産）
令和 6年 9月10日	令和6年度 前期収入支出関係、固定資産
令和 6年10月25日	令和6年度 前期収入支出関係、固定資産
令和 7年 1月30日	令和6年度 後期収入支出関係、固定資産
令和 7年 2月28日	令和6年度 後期収入支出関係、固定資産
令和 7年 3月11日	令和6年度 専門学校収入支出関係、固定資産
令和 7年 3月24日	令和6年度 後期収入支出関係、固定資産

ウ. 内部監査

実施日	監査内容
令和 6年 4月16日	令和5年度科学研究費等公的資金の帳簿・証憑および各種申請書を監査（関西医療大学）
令和 7年 2月18日	令和6年度科学研究費等公的資金の帳簿・証憑および各種申請書を監査（関西医療大学） 令和6年度厚生労働省科学研究費補助金の監査

(3) 私立学校法改正に伴う寄附行為の変更および内部統制システムに関する体制の整備

令和7年4月1日施行の改正私立学校法に基づき、寄附行為の変更を行うとともに、私立学校法および私立学校法施行規則の規定に準じて、本学園の内部統制システムの整備に係る基本方針を定めるほか規程の制定および改正を行った。

(4) 将来構想検討委員会

将来構想検討委員会は、学園の将来を見据えた大学等の戦略を策定する場として機能しております。大学においては、入学定員の未充足が続く学科の現状を改善するため、学生確保の強化を図る具体的な方策を検討しました。引き続き、学園が当面する諸問題等を検証し、将来構想についての検討を行ってまいります。

2. 大学・大学院

【関西医療大学の3つのポリシー】

- ・「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」

関西医療大学は、建学の精神「社会に役立つ道に生きぬく奉仕の精神」のもと、学則に定めた卒業要件を満たし、次の資質と能力をもつ学生に学士の学位を授与します。

1. 医療人として、豊かで深い教養と倫理観を身につけている
2. 保健医療の各分野で求められる専門的な知識をもち、医療技術を実践できる
3. 新たな課題を科学的・論理的に探求して解決できる知性を身につけている
4. チーム医療の一員として、自らの責任と役割を理解して行動できる

・「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」

関西医療大学は、学位取得のためのプログラムとして、医療資格の要件に沿って教育課程の中に教養科目と専門科目を体系的に配置し、次の方針に基づいて、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を中心とする質の高い教育を実践します。

1. 人々の悩みを深く理解できる豊かな教養と倫理観を育む
2. 保健医療の基礎的及び専門的な知識を理解し、実践的な医療技術を発揮できる力を育む
3. 時代の流れに広く関心をもち、新たな課題を探求して解決できる力を育む
4. チーム医療の一員として責任をもち、協調して行動できる力を育む

・「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」

関西医療大学は、建学の精神「社会に役立つ道に生きぬく奉仕の精神」に共感し、次の意欲をもって地域社会へ貢献しようとする新しい力を求めます。

1. 人々が医療に求めることを理解し、それに応えられるようになりたい
2. 保健医療の基礎的及び専門的な知識と技術を学び、自分の力を発揮できるようになりたい
3. 身につけた知識と技術を生かし、課題を探究して解決する力を高めたい
4. チームの中で自らの役割を果たし、人々の健康を支える医療人になりたい

【関西医療大学大学院修士課程の3つのポリシー】

・「修士認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」

関西医療大学大学院は、建学の精神に基づき、所定の単位を修めて保健医療に関する学術理論と研究方法・技術を修得し、研究成果としての修士論文の審査に合格した次の資質・能力をもつ者に修士（保健医療学）の学位を授与します。

1. 保健医療分野の専門職としての高い倫理観に基づく実践力
2. 保健医療分野のリーダーとしての論理的思考力と問題発見・解決力
3. 保健医療分野のリーダーとしての責任感と主体的行動力
4. 保健医療分野の専門領域の発展に貢献できる研究力

・「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」

関西医療大学大学院は、教育課程の中に保健医療や医療倫理に関する幅広い知識を身につける共通教育科目、保健医療学分野における専門性を高めて高度専門職業人に必要な技術と知識を学ぶ専門教育科目、ならびに研究に関する基礎能力を修得する特別研究科目を体系的に配置して、保健医療分野のリーダーに求められる次の資質、能力を養成します。

1. 保健医療に携わる者に求められる高い倫理観と専門知識・技術
2. 広い視野に基づく情報収集力と問題発見・解決力
3. 保健医療分野の専門職としての高度な実践力
4. 論理的思考と科学的分析に基づく探究力と研究力

・「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」

関西医療大学大学院は、本学の建学の精神「社会に役立つ道に生きぬく奉仕の精神」を理解し、保健医療に関する基礎または臨床研究を通じて保健医療を科学化し学問体系を確立すること、ならびに高い倫理観と専門性を身につけて我が国の保健医療の発展に貢献することを目指す次の

ような熱意ある人たちを広く求めています。

1. 専門領域においてキャリアアップを図り、リーダーシップを発揮したい人
2. より高度で専門的な知識と技術を修得して保健医療に従事する意欲をもつ人
3. 保健医療分野における専門領域の第一線で活躍する研究者や教育者を目指したい人

【関西医療大学大学院博士後期課程の3つのポリシー】

・「修士認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」

関西医療大学大学院は、建学の精神に基づき、所定の単位を修めて保健医療に関する学術理論と研究方法・技術を修得し、研究成果としての博士論文の審査に合格した次の資質と能力をもつ者に博士（保健医療学）の学位を授与します。

1. 保健医療分野の主導的臨床専門職としての高い倫理観に基づく主体的行動力
2. 保健医療分野における課題発見力と高度な論理的思考に基づく課題解決力
3. 保健医療の各分野を牽引するリーダーとしての責任感と判断力
4. 世界の保健医療分野の発展に貢献し、後進の指導を担える研究実践力

・「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」

関西医療大学大学院博士後期課程は、教育課程の中に保健医療や医療倫理に関する幅広く深い知識を涵養する共通教育科目、保健医療分野における主導的臨床専門職となり得る高度で先進的な技法と知見を学ぶ専門教育科目、並びに主体的な研究実践力と研究成果の発信力を修得する特別研究科目を体系的に配置して、次世代の保健医療分野を牽引するリーダーに求められる次の資質と能力を養成します。

1. 先進的保健医療に関わる複雑な状況に対処しうる判断力と倫理的行動力
2. 深い学識と広い視野に基づく高度な情報収集・調査能力と課題発見力
3. 保健医療分野の主導的臨床専門職となり得る最新の専門知識・技術とその実践力
4. 科学的手法と論理的分析に基づく優れた研究実践力と課題解決力

・「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」

関西医療大学大学院博士後期課程では、本学の建学の精神「社会に役立つ道に生きぬく奉仕の精神」を理解し、これまでに学んできた専門知識や技術を深化させ、保健医療に関連する学際的研究分野の発展に積極的に役立てようとする意欲と展望をもつ次のような熱意のある人を広く求めています。

1. 保健医療学に関する基礎的研究と臨床への応用を実践するため、高い倫理性のもと幅広い学識と体系的な専門知識及び先進的な技術を身につけて行動したい人
2. 保健医療学の各領域における課題の発見と解決に貢献し、未来へ向けた新しい保健医療の構築と発展に寄与するリーダーとなる意欲をもつ人
3. 論理的思考を身につけ、保健医療学の高度な学術研究の遂行に意欲をもち、自らの研究成果を世界に発信しようとする目的意識のある人

ア. 学生定員の確保

＜中期計画：領域1大学の使命：1-1／領域5管理運営：1-1、1-2＞

ア) 学生募集活動

学生募集活動については、在校生の母校を含め高校訪問を精力的に実施することができ、ガイダンスへの参加、資料提供、情報交換などの協力依頼を行い、803校（昨年度599校）を訪問することができました。その結果、オープンキャンパスには、1,623人（昨年度よりも18.8%の増）に参加いただくことができました。また、Webサイトのリニューアルやコンテンツの追加を進めるなど、以下の項目に重点を置いて活動を行いました。

- a. 高校訪問、進路ガイダンスなど対面での学生募集活動の実施
- b. SNS 対応を含めたWeb 広報の強化
- c. 高校教員ならびに高1・2 年生向けの情報発信の強化 など

イ) 入学試験

入学後の状況に関する追跡調査や出願動向などの分析結果を踏まえて、高校生の進学活動の早期化への対応と受験機会の拡大を図るため、令和6年度入試から以下の変更を行いました。

- a. 基礎学力検査、学科試験の解答をマーク方式に変更
- b. 一般選抜中期日程の廃止
- c. 総合型選抜に基礎学力型を追加
- d. 総合型選抜エントリー型等でⅡ期日程を追加

ロ) 令和7年度入学者数

これらの取組みの結果、入学志願者数が1,388人（前年度1,216人）と増加し、令和7年度の入学者数は362人（入学定員340人対比106.5%）を確保することができました。

イ. 教育組織の整備

＜中期計画：領域2教育：1-2、1-3／領域3学生支援：1-1、1-2、1-3、2-1／領域4研究：2-1、2-2＞

ア) 保健医療学部

ア. はり灸・スポーツトレーナー学科

令和6年度に改定したカリキュラムを申請に基づき確実に履行しました。また、必要な教具・教材を整備して国家試験対策を強化するなど、教育環境のより一層の充実を図りました。

アスレティックトレーナー資格については、スポーツトレーナーとしての知識の修得はもちろん、教材の更新を含めて現場実習を充実させ、難関である日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格試験の合格率向上を目指しました。

・令和6年度アスレティックトレーナー試験合格率

新卒 学科試験：66.7%（6/9人）、実技試験：6名受験（結果待ち）

既卒 学科試験：25.0%（1/4人）、実技試験：1名受験（結果待ち）

イ. 理学療法学科

令和6年度に改定したカリキュラムを申請に基づき確実に履行しました。また、学科が掲げる「臨床実習は学内教育の体験学習である」という教育理念を実現するため、外部施設の臨床実習指導者を充実させる調整を進め、指定規則で定められた実習指導者講習会を本学主催で開催しました。さらに、学内の教育環境をより一層整備して国家試験対策を強化し、今年度は昨年度に引き続き合格率100%を達成しました。

ウ. 作業療法学科

令和6年度に改定したカリキュラムを申請に基づき確実に履行しました。効果的な教育に必要な教具・教材等を整備して教育環境のより一層の充実を図り、国家試験対策を強化しました。また、安定した臨床実習施設の確保のため、実習指導者調整会を充実させて、実習施設との打ち合わせや調整を十分に行うなどして、教育環境・体制の整備を行いました。

エ. ヘルスプロモーション整備学科

令和6年度に改定したカリキュラムを申請に基づき確実に履行しました。効果的な教育に必要な教具・教材等を整備して教育環境の一層の充実を図り、国家試験の合格率向上を目指しました。また、学生の募集力を高めて定員未充足を改善する方策として、本学科においても日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を取得するカリキュラムの導入を検討し、令和8年度からの運用を目指して教員確保等の準備を行いました。

オ. 臨床検査学科

令和4年度に改定したカリキュラムを申請に基づき確実に履行しました。最新の検査実習

用機材等を整備することで充実させた教育環境の中で教育を行い、今年度の国家試験の合格率は 100%を達成しました。また、難関である細胞検査士資格認定試験においては 77.8% (7/9 人) の合格率を得ました。

イ) 保健看護学部

ア. 保健看護学科

指定規則改正に伴い令和 4 年度に改定したカリキュラムを申請に基づき確実に履行しました。文部科学省による補助金を獲得して令和 4 年度に導入したハイブリッドシミュレーターを有効に活用して効果的な看護教育を実践するため、実習室を中心とした教育施設設備の充実を図り、経年劣化した教具・教材等に適切に対処しました。また、日本私立看護系大学協会の助成金を獲得してオンライン FD 研修を実施し、看護教育の質の向上を図りました。今年度の国家試験については看護師、保健師、助産師の全ての資格において合格率 100%を達成しました。

ロ) 大学院

ア. 保健医療学研究科

大学院の学生に対して、指導教員はもちろん、指導教員が所属する研究ユニット全体で研究指導する体制を整備しており、令和 3 年度からは 1 年生による研究計画発表会の開催を開始するなど、大学院教育研究活動のより一層の充実を図りました。

また、令和 6 年 4 月に開設した博士後期課程では、4 名の学生 (入学定員 3 名) を迎え入れ、保健医療分野における高度な主導的臨床専門職としての人材養成を開始しました。

ウ. 改正大学設置基準への対応

＜中期計画：領域 2 教育：4-1/領域 5 管理運営：4-1＞

令和 4 年 10 月に改正された大学設置基準について、教員と事務職員による教育研究実施組織の整備、学年暦の柔軟化などへの対応を中心にして、本学の現状を踏まえて検討しました。特に、基幹教員の導入については、現在の各学部・学科の教員配置や学内規程と照らし合わせながら、引き続き慎重かつ十分な議論を重ね、対応していきます。

エ. 行政庁への申請・届出等

＜中期計画：領域 4 研究：2-3＞

令和 6 年度に開設した大学院保健医療学研究科博士後期課程について、完成年度 (令和 8 年度) に至るまで「設置計画履行状況報告書」(AC) を文部科学省へ提出します。今年度については 5 月末に提出し、令和 7 年 3 月末に調査結果の公表があり、本学の当該履行状況に対して指摘事項 (是正・改善) は付されませんでした。引き続き、教育水準の維持・向上を遂行していきます。

また、令和 7 年度大学院修士課程 (2 コース) の入学生を対象とする文部科学省「職業実践力育成プログラム」(BP) の認定を受けました。

さらに、当該プログラムの認可を受理されたことで、厚生労働省「教育訓練給付制度」の専門実践教育訓練の指定講座への申請を行い、こちらも認可を受けることが出来ました。

オ. 学修支援

＜中期計画：領域 2 教育：1-1/領域 3 学生支援：1-1＞

ア) 科目ナンバリング・カリキュラムマップ等の点検

全ての科目に科目ナンバリングを付して学科ごとに科目の体系化を行い、また、カリキュラムポリシーと科目ナンバリングに基づく各科目の位置づけについてカリキュラムマップを作成することで可視化しています。令和 3 年度には本学のディプロマポリシーと科目履修との関係性をカリキュラムマトリクスとして整理しました。今年度も引き続き、学修のしくみを説明するこれらのツールの点検を行いました。

イ) 学修成果の可視化

学生の履修科目の成績に基づいて学修成果を可視化するしくみを整備して、学科のカリキュ

ラム編成と学生が身につける行動特性や能力（コンピテンシー）の到達度の関係などを視覚的に示し、学科の教育や学生の学修状況の改善と向上に役立てています。令和3年度からは卒業生に対して個人の学修成果を記したディプロマ・サプリメント（学位証書補足資料）を発行する取り組みを開始しました。今年度もこれらの取り組みを継続し、教育の質の保証を図りました。

ウ) 教育研究・学修支援センター

令和4年度に設置した教育研究・学修支援センターにおいて、令和5年度には国際交流部門で JICA 研修員の受入れを行い、データサイエンス部門では教員の研究に用いる解析ソフトの使用調査について検討しました。令和6年度には地域連携・社会貢献部門が発足しました。今後も引き続き学生の学修を様々な側面から支援して充実させていきます。

カ. 学生サービスの充実

＜中期計画：領域3 学生支援：2-1／領域4 研究2-2＞

ア) 特待生制度

以下の通り、成績が優秀な学生を特待生として採用し、新入生については年額100万円、2年生～4年生については年額40万円の学費減免を行いました。

- a. 新入生については、入学試験の成績上位から、各学科の入学定員の10%の人数を上限として特待生を採用しました。ただし、保健看護学科2名ずつ、保健医療学部の各学科1名ずつを公募制推薦I期2科目型受験の入学者から、その他は一般入試前期日程3科目型受験の合格者から採用しました。（令和6年度実績：はり灸・スポーツトレーナー学科2名、理学療法学科3名、臨床検査学科4名）
- b. 2年生～4年生については、年度ごとに、前年度の成績上位から、入学定員60人までの学科は3人、60人を超える学科はその超える数が20人までを増すごとに1人を加えた人数を特待生として採用しました。ただし、学年毎に定員を満たしていない学科については、在学生数に応じて採用数を減じました。（令和6年度実績：はり灸・スポーツトレーナー学科8名、理学療法学科9名、作業療法学科7名、ヘルスプロモーション整復学科5名、臨床検査学科9名、保健看護学科15名）

イ) 通学バスのダイヤの見直し等

通学バスを利用する学生の増加に対応するため必要に応じて通学時間帯のバスのダイヤの見直しを行って、通学の利便性を確保しました。具体的には、8時台の登校時の泉佐野駅発急行便（2便）を大学直通便に変更するとともに、下校時の大学発熊取駅行き急行便（2便）を熊取駅経由泉佐野駅行きに変更し、南海本線泉佐野駅と大学間の通学の利便性を高めました。また、誘導員を配置してスムーズな乗車を確保しました。

ロ) 交通指導員の配置

学生の交通マナーの向上を図るため、また、近隣住民にご迷惑がかからないよう大学周辺における登校時間帯に交通指導員の配置を行いました。

ハ) 球技大会、学園祭

在学生一人あたり2,800円の補助金を支出して球技大会、学園祭の開催を支援しました。

ニ) クラス会

在学生および担任、担任補助教員一人あたり1,150円を支出してクラスの親睦を目的にクラス会の実施を支援しました。

ヒ) 学内団体活動

学内団体活動補助金として年間総額150万円の予算を各団体に配分し、活動を支援しました。

ヘ) トレーニングルームの学生貸し出し

学生からの要望が強いトレーニングルーム利用について管理者をおいて利用可としました。

ホ) 新入生おたすけ隊

在学生に新入生おたすけ隊の編成を指導し、新入生が大学生活に慣れ、疑問点を解消するこ

とを支援しました。

ケ) 外部団体給付奨学金の採用

小野奨学会、ビー・エム・エル医療教育基金、梶山高志・ビケンテクノ奨学財団等の給付奨学金を取り扱いました。

コ) 交通マナー巡回

教職員による交通マナー巡回を年2回行い、交通安全の啓蒙を行いました。

カ) 下宿一覧の作成

近隣の優良物件をまとめた下宿一覧を作成し、主に入学生の下宿探しを支援しました。

シ) 保健室

健康で充実した学生生活が送れるよう体調不良時の応急処置、相談等の支援をしました。

また、令和6年度より保健室員（保健師・養護教諭）を増員し、学生の健康管理に対応していきました。

ス) 学生相談室

学生生活における学業、対人関係、就職、家庭問題などプライバシーを厳守しながら教員が相談員として相談を受けました。

セ) カウンセリングルーム

公認心理師／臨床心理士がメンタルに不調を感じている学生に対応しました。

ソ) 教育訓練給付制度

教育訓練給付制度（厚生労働省）専門実践教育訓練給付の指定申請を行い、令和7年度より大学院修士課程 保健医療学専攻 臨床身体機能学コース、臨床鍼灸学コースが対象講座に指定されることとなりました。

キ. キャリア支援

＜中期計画：領域3 学生支援：2-1、3-1＞

学生に対するキャリア支援体制として、令和6年度も学科単位でのキャリア教育やキャリア支援イベントの開催などを行いました。

保健看護学科、臨床検査学科及び理学療法学科においては、近年第一希望への就職、さらに学科によっては実習施設への就職が厳しくなっています。コロナ禍以降、書類審査をはじめ多様化した採用試験に対応する為、履歴書の作成方法から面接対策セミナーやオンラインでの履歴書添削、模擬面接等の充実を継続的に図っています。

学生の意向を確認する為、教員及びキャリア支援課職員による進路面談を行っていますが、一般企業や公務員を希望する学生が増加傾向にあります。その為、学科ごと又は学科を跨いで職業について学生の理解が深まるような支援イベントを開催しました。さらに、本学所轄のハローワークより専門員を招き、医療業は勿論、それ以外の求人情報及び進路相談を行うなどのサポートの実施をしました。

各学科（資格）の求人データの整備については、大学（教学部）業務基幹システム及び授業支援システム（Moodle）を活用し、採用試験情報の閲覧サービスを向上させました。

ア) キャリア支援相談・指導

一般企業にも対応した就職活動マニュアルをスマートフォンで閲覧可能なアプリ版で全学年に配付しています。活用法等については、各学年のガイダンス時などで指導しました。

また、専門職（医療職）への進路に悩む学生については、各学科のキャリア支援委員、担任教員及びキャリア支援課と相談できる体制を整備するとともに、定期的に来学いただくハローワーク相談員にも相談できるよう学生にアナウンスしました。

加えて、学生の就職支援に授業支援システム（Moodle）を重点的に活用するにあたり1年生～3年生のガイダンス時に利用方法を周知し、イベントや学生個々の就職活動に利用してもらい、低学年からのキャリア形成に繋げました。

イ) キャリア支援イベント

各学科でキャリア教育科目を選定し、学科教員、外部講師、キャリア支援課による講座を実施しました。具体的には、低学年から職業観の醸成を目的とした「社会人基礎力講座」、「ライフデザインキャリアセミナー（はり・スポ2年生）」、インターンシップ実習に備えた「コミュニケーション研修」及び「マナー研修」などを継続して実施しました。

特別講義については、各資格職で活躍されている講師を招いて開催しました。

履歴書、エントリーシートに貼付する写真については、大学側が専門業者と調整し学科ごとに日程設定し撮影会を行いました。

なお、令和6年度のキャリア支援イベントについては、保健看護学科の学内就職説明会を除き、対面で実施しました。

a. 学内就職説明会

学生にとって就職先の選択に直結することになる「学内就職説明会」について、令和6年度は以下のとおり開催しました。

[ヘルスプロモーション整復学科]

8月3日（土）に本学で実施しました。治療院だけでなく、社会福祉施設・病院等にも参加していただき企業理解、業界理解を促し就職に繋げていきました。

[理学療法学科／作業療法学科／保健看護学科]

例年実施してきた3学科の就職説明会について、令和6年度も実習施設を確保・維持するため、参加をお願いする施設を各学科の実習施設に限定することとし、学科別に開催しました。

理学療法学科・作業療法学科は8月8日（木）に本学講堂で実施しました。保健看護学科については、2月21日（金）にオンラインで実施しました。

b. 卒業生と語る会

就職先選択の情報として学生に活用してもらうため、各学科の卒業生を招き、在学生に実際の現場での状況を語ってもらう「卒業生と語る会」を開催しました。

c. キャリア支援ミニ講義

例年、全学生が参加しやすい昼休憩時間を利用して実施していましたが、コロナ禍以降、方法・時間等を制限せず、各学科で内容を工夫し実施してきました。令和6年度もその方法を踏襲して実施しました。

キャリア支援課が担当していた「就職活動の流れ」「求人票の見方と社会保険制度」については、スタートアップ講座（各学科3年生）などで実施しました。

d. キャリア教育

各学科で専門分野のキャリア教育を継続して行いますが、これと並行して、学生の進路希望が多様化していることを踏まえた一般的なキャリア教育についても、キャリア支援委員会及びキャリア支援課で、その内容を検討し実施しました。

学科（資格）ごとに、「スタートアップ講座」として、病院選びやその職種での就職活動スケジュール、さらに求められる人材などについての講座を開講しました。

また、各学科で選定している「キャリア教育科目」の授業で、実践的なキャリア関連講義の内容を検討して実施しています。

ウ) 求人先の開拓

これまで輩出した卒業生の進路の動向を基に、教員とキャリア支援課が連携して求人開拓しています。具体的には、学生が入職した施設や採用試験を受験した施設、実習施設を主としてキャリア支援課職員、担当教員が訪問し、卒業生の勤務状況の確認を行うなど、数年前から行っている求人先確保と本学知名度の向上も踏まえたフォローアップ体制をさらに充実させていきます。

本学に寄せられる鍼灸師、柔道整復師の求人件数は、安定して学生の就職希望者に対して十分な件数を確保していますが、様々な地域へのUターン就職希望者に対して必要な情報を提供できるよう、進路個人面談及び進路調査票のデータを基に、学園OBの情報を積極的に収集するなど、求人確保に努めました。また、一般企業への進路希望者がいるため、その分野での求人開拓も行いました。さらに、トレーナー現場での就職を強く希望する学生に対応するため、実業団やクラブチームで活躍している卒業生に対して、求人に関わる情報提供を積極的に求めています。

【令和6年度卒業生 進路状況】

(令和7年3月26日現在)

学 科 名	卒業生 (3月末 卒業含む)	就職 希望者	進路決定者		未定者	その他
			就職 決定者	進学者		
はり灸・スポーツトレーナー学科	38名	32名	32名	2名	—	4名
理学療法学科	57名	57名	57名	—	—	—
作業療法学科	31名	30名	30名	—	—	1名
ヘルスプロモーション整復学科	20名	11名	11名	3名	—	6名
臨床検査学科	58名	55名	55名	1名	—	2名
保健看護学科	101名	99名	99名	1名	—	1名
大学院保健医療学研究科	12名	12名	12名	—	—	—
計	317名	296名	296名	7名	—	14名

*その他：国家試験受験準備者・非就職希望者

[主な就職先 (令和6年度卒業)]

- はり灸・スポーツトレーナー学科
(株) NOMOKOTSU、(株) SYNERGY JAPAN、(株) N-Labo、今川商事(株) 健康スポーツ科学センターWIT、EMPOWERMENT(株)、シュライカー大阪
- 理学療法学科
葛城病院、喜馬病院、榎本病院、社会医療法人スミヤ、社会医療法人清恵会、社会医療法人三和会、日野病院、貴志川リハビリテーション病院、武田病院グループ
- 作業療法学科
榎本病院、森之宮病院、泉佐野優人会病院、馬場記念病院、河西田村病院、貴志川リハビリテーション病院、北出病院、社会医療法人清恵会、中江病院、日野病院
- ヘルスプロモーション整復学科
iCure テクノロジー (株)、(株) NOMOKOTSU、(株) 日本セラピー、(株) ハイレン
- 臨床検査学科
【病院】 大阪府立病院機構、大阪医科薬科大学病院、堺市立総合医療センター、大阪医科薬科大学病院、岸和田徳洲会病院、八尾徳洲会病院、住友病院、奈良医科大学附属病院、和歌山県立医科大学附属病院、和歌山労災病院
【企業】 (株) LSI メディエンス、(株) ファルコバイオシステムズ、(株) メディック、(株) ピー・シー・エルジャパン
【一般企業】 シーメンスヘルスケア・ダイアグノティクス(株)、近畿日本鉄道(株)、(株) オネスト

● 保健看護学科

(看護師) 大阪府立病院機構、和泉市立総合医療センター、堺市立総合医療センター、市立岸和田市民病院、りんくう総合医療センター、社会医療法人生長会、美原病院、和歌山県立医科大学附属病院、兵庫県立病院、大阪赤十字病院、近畿大学病院、順天堂大学医学部附属浦安病院、島根県中央病院

(保健師) 尼崎市、和泉市、岩出市、東大阪市、熊取町

(助産師) 大阪母子医療センター、岸和田市民病院、兵庫県立西宮病院、福井大学医学部附属病院、愛染橋病院

ク. 図書館

＜中期計画：領域2 教育：2-2＞

図書については、例年通り医療系の資料を中心に購入を計画的に行っていました。加えて引き続き展開中であるリベラルアーツコーナーの資料を定期的に購入しました。また、図書委員会において図書館資料の利用推進について検討し、昨年度に実施した書架上の空きスペースを利用した展示の拡充のほか、図書館出入口付近に図書の紹介パネルを設置し、おすすめ図書の紹介をカウンター前で行うなど資料展示や資料紹介の掲示を実施しました。令和4年度より開始した貴重資料の期間限定特別展示会の開催を継続して行いました。

書架の狭隘化への対策としては、計画的な除籍を行っています。図書委員会での協議の結果、令和6年度選定分の資料の除籍が決定し、データおよび現物の処理作業を行いました。また、令和7年度に向けて新たな除籍検討資料を選定し、各学科図書委員を通じて内容確認を行っています。

ケ. 研究

＜中期計画：領域4 研究：1-1＞

ア) 研究体制

大学内に研究領域ごとの研究ユニットを組織して、各研究ユニット長が共同研究推進委員を兼ね、定期的で開催される同委員会において、各研究ユニット間の情報交換、今後の研究計画等について協議しました。学外からの共同研究希望者に対しては、研究員ならびに準研究員として門戸を広げ、緊密に連携できる研究体制を整えました。令和6年度の研究ユニットは、各研究分野の多様性を重視して、次の13ユニットで活動しました。

鍼灸学ユニット、スポーツトレーナー学ユニット、ヘルスプロモーション・整復学ユニット、理学療法学ユニット、作業療法学ユニット、基礎看護学ユニット、臨床看護学ユニット、生涯発達看護学ユニット、地域老年看護学ユニット、人文・自然科学ユニット、基礎医学ユニット、臨床医学ユニット、臨床検査学ユニット

なお、令和7年度からは研究体制を見直し、4つのグループ（医科学、看護学、臨床身体機能学、臨床鍼灸学）に再編し、研究活動を進めていきます。

イ) 研究倫理・研究不正防止

近年、研究不正行為や研究費の不正使用が後を絶たず、文部科学省による「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（令和3年2月1日改正）」ならびに「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日制定）」において、研究機関ごとに倫理教育の実施が求められているので、本学としても昨年度に引き続き、研究倫理教育研修会を、以下のとおりオンラインで実施いたしました。

研究倫理教育研修会を当日受講できなかった者は、後日収録動画を視聴し受講対象者全員が研修会を受講しました。

＜研究倫理教育研修会＞

日 時 令和6年12月19日（木） 13時00分～14時00分

研修内容 『研究計画時における研究倫理の配慮事項について（人を対象とした研究）』

講 師 京都府公立大学法人 京都府立医科大学 研究質管理センター
センター長 伏木 信次 先生

また、令和6年度も研究不正防止のためのコンプライアンス教育研修を以下のとおり実施し、受講対象者全員が受講しました。

<コンプライアンス教育研修>

- 研修方法 ①文部科学省のガイドライン改正に関する説明動画の3年に1度の視聴
「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」の改正について
②研究費ハンドブックの通読
③「公的研究費使用に関する誓約書」の毎年の提出
④APRIN eラーニングの3年に1度の受講

さらに、公的研究費を含む研究費の適正使用を啓発するための「公的研究費適正執行 NEWS LETTER」の定期発行（年4回）を行いました。

ウ) 研究活動

研究活動のうち、ヒトを対象とした臨床試験・臨床研究は附属保健医療施設（診療所、鍼灸治療所、接骨院）ならびに臨床・基礎系の各研究ユニットをはじめとする研究環境の中で行われ、動物実験などの基礎研究は実験動物センターを中心に基礎医学ユニットで行われています。ヒトについての臨床研究は、人権擁護及び個人情報保護の見地から、研究倫理審査委員会においてその倫理性と科学的妥当性について審査されました。動物実験については、動物愛護に関する倫理性および感染症防止ならびに遺伝子保護について、動物実験委員会において審査され、また、遺伝子組換え実験に関する安全性については、遺伝子組換え実験等安全委員会で審査されています。

産学協同研究については、企業との適切な連携の在り方（知的財産権、資金運用、利益相反など）が産学連携委員会で審議され、契約の履行についても指導・管理が行われました。

エ) 学内競争的資金の配分

一般共同研究費については、平成27年度から、

- ①配分される個人研究費のうち教授15万円ならびに准教授5万円を一般共同研究費に移管する。
- ②一般共同研究費のうち学内競争的資金については、科学研究費へ申請しその審査結果等をもとに学長が配分する。
- ③学内競争的資金については、研究計画申請はユニット単位とする。
- ④学内競争的資金については、科学研究費が不採択だった研究計画を申請条件とし、申請には統一された書式を用いる。
- ⑤学内競争的資金については、科学研究費の審査結果評価点数上位2~3研究の所属ユニットへ傾斜配分する。
- ⑥今年度に学内競争的資金が配分された研究ユニットは次年度の申請を行わない。
- ⑦科学研究費が採択された研究には一般共同研究費から所属ユニット及び個人研究費へ科学研究費間接経費3分の1相当額を各々補助する。

という方式に従って、各研究ユニットから提出された共同研究計画申請（3件、申請総額4,239千円）を審査した結果、東洋医学研究センターに1,200千円、理学療法学ユニットに1,239千円、臨床検査学ユニットに1,100千円を配分しました。

教育研究費については、1件の応募がありましたが、採択されませんでした。

また、令和6年度科学研究費採択課題補填として、科学研究費新規採択者及び継続者に対し、臨床検査学ユニットに130千円、理学療法学ユニットに40千円、基礎医学ユニットに60千円、作業療法学ユニットに35千円を配分しました。

さらに、若手研究者による研究実践を奨励するために、令和6年度も奨励研究計画申請を学内から募集した結果、6件の申請（申請総額1,194千円）があり、検討した結果、6件に総額1,194千円を配分しました。

カ) 外部資金の獲得

①文部科学省・日本学術振興会 科学研究費補助金

令和6年度の受領件数は、研究代表者としては新規採択1件（令和6年度配分額計1,690千円〔直接経費・間接経費の合計、以下同じ〕）、継続11件（令和6年度配分額計1,755千円）、また、研究分担者として、他大学からの受領件数は、新規・継続合わせて12件（令和6年度配分額計806千円）となり、科学研究費補助金受入合計は24件（令和6年度受領額計4,251千円）でした。

②厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業）

令和6年度の受領件数は、分担研究者として1件（配分額計700千円）でした。

カ) その他

①研究交流会の開催

平成19年度より、若手研究者と大学院生の研究活動支援のため、研究交流会を開催しています。平成20年度から共同研究施設の正式な研究教育活動に組み入れ、平成22年度からは共同研究推進委員会が運営しています。平成23年度からは大学院が中心となり、学内研究交流会を開催しています。なお、外部講師招聘に関わる経費については、内規を定め研究室運営費から助成しています。学内研究交流会及びユニット勉強会は令和6年度合計18回（4月1回、5月2回、6月1回、7月2回、8月1回、9月1回、10月1回、11月3回、12月2回、2月2回、3月2回）開催しました。

②研究活動報告書

毎年度、研究ユニットを単位とする標記報告書を作成しています。平成22年度分からは「関西医療大学 紀要」に掲載することとしており、令和5年度分は「関西医療大学 紀要 VOL18」に掲載予定です。

コ. 施設・設備の整備・補修等

＜中期計画：領域2 教育：2-1、2-2＞

ア) 体育館壁面タイル等の打診等調査、修繕工事

体育館において漏水が見受けられ、経年劣化によるタイル落下等の恐れもあったことから、壁面タイルやコンクリート面等について打診等調査を行い、その調査結果に基づいて修繕工事を行いました。

イ) 1号館西側および東側壁面タイル等の打診等調査、修繕工事

1号館西側および東側において漏水が見受けられ、経年劣化によるタイル落下等の恐れもあったことから、壁面タイルやコンクリート面等について打診等調査を行い、その調査結果に基づいて修繕工事を行いました。

ウ) 管理棟外部壁面タイル等の打診等調査、修繕工事

管理棟において漏水が見受けられ、経年劣化によるタイル落下等の恐れもあったことから、外部壁面タイルやコンクリート面等について打診等調査を行い、その調査結果に基づいて修繕工事を行いました。

エ) 1号館1階電子顕微鏡室の電子顕微鏡等撤去および改修工事

1号館1階解剖学教室[電顕]の電子顕微鏡が故障し修理不可能な状況であったため、電子顕微鏡およびユニットハウス等の撤去を行い、今後は同室を実験室として利用できるよう改修工事を行いました。

オ) 1号館2階講義室および実技室のロールカーテン取付工事

1号館2階201講義室から210講義室および213講義室、221実技室から226実技室の全室に

ついて、経年劣化によりブラインドカーテンの損傷が激しかったことから、ロールカーテンへの取替工事を行いました。

か) 1号館1階事務室内時計設備更新工事

学内全体の設備時計について、1号館1階事務室内に設置の時計設備が劣化により不具合が生じていたことから、更新工事を行いました。

き) 診療・研究棟および3号館屋上への移動式粉末消火設備設置工事

診療・研究棟および3号館について、消防署より屋上に消防用設備の設置がないことによる違反指摘を受けていましたが、先方より指摘の撤回があり、設置不要となったため、診療・研究棟と3号館共に、移動式粉末消火設備設置工事の実施を見送りました。

け) 正面坂道の外灯照明LED化工事

正門を入れて正面坂道の側道について、学生より夜間に足元が暗く危険であるとの指摘があったことから、安全面と今後のLED化に対する必要性を鑑み、LEDへの取替工事を行いました。

け) Wi-Fi環境の充実

ICTを活用した教育の促進に対する社会の要請や遠隔授業・対面授業（ハイブリッド型）等に対応するため、Wi-Fi環境の全館整備を年次計画により実施しており、令和6年度は、1号館と2号館、3号館、診療・研究棟の必要箇所において環境整備を行いました。

こ) 老朽化したプロジェクターの更新

3号館2階B21・B22講義室および5号館5階C502・C503講義室に設置しているプロジェクターが老朽化と保証期間終了によって修理不可のため、新たな機種に更新しました。

か) 体育館設備の充実

体育授業、健康運動実践指導者教育等で使用するための機器の充実や老朽化機器の更新等を行い、学生の安全確保、教育環境の整備を図りました。

サ. 自己点検・評価

＜中期計画：領域7内部質保証：1-1、1-2＞

7年以内に一度の受審が法令で義務づけられている大学機関別認証評価（第3サイクル）について、令和5年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による書面調査と実地調査が行われました。その結果、大学全体としての教育・研究と大学運営に対しては適合判定を得ましたが、一部の学科の収容定員未充足状況に関しては「改善を要する点」としての指摘が付されたため、令和8年の改善報告に向けて対策を検討しました。そのほか認証評価で明らかになった諸課題についても改善を図りました。

また、令和12年度に受審予定の第4サイクルの大学機関別認証評価に備え、現体制の後進となる教職員を育成し、日本高等教育評価機構の評価員としての経験を積める体制を整えていく予定です。

シ. SD・FD活動

＜中期計画：領域2教育：1-2、領域5管理運営：2-1＞

ア) SD活動

文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団、私学経営研究会及び日本私立大学協会等が実施する外部の研修会に事務職員が参加するなど、職員自身が業務の専門性や効率性の向上を目指せるように支援し、職員全体の資質の向上に努めました。

また、教職員を対象とした学内SD研修会は、以下のとおり開催しました。

新任教職員研修会（新任教職員13名が受講）

日時・場所：令和6年4月3日（水）10:00～15:00 / 1号館2階211教室

研修テーマ：建学の理念及び本学の沿革、教学運営体制、授業実施方針、FD・SD活動等

研修方法：対面形式

全体研修会（全教職員が受講）

日時・場所：令和6年9月26日（木）10:00～11:30 / 5号館3階講堂

研修テーマ：「本学の財務の課題と展望」 本学の財務の現状と課題、今後に向けた展望等

研修方法：対面形式

イ) FD活動

前年度に引き続き、大学院を含め、以下の項目を中心にFD活動を行いました。

- a. 学内外講師による講演会の開催 3回開催
- b. 公開授業（教員相互の授業評価）の実施
- c. 授業評価アンケートの実施
- d. 学外研修会への参加

ス. 教学マネジメント体制の強化 <中期計画：領域1大学の使命：1-2、2-1／領域2教育：3-1>

令和2年に文部科学省より示された「教学マネジメント指針」に基づき、学長のリーダーシップの下で本学の教学マネジメントを確立していくため、学長が設置する大学運営会議と教授会及び教務推進委員会を中心とする意思決定の体系を明確にするよう組織規程を改定し、本学の教学に関する意思決定をより迅速に行う体制を整備しました。

また、学長の補佐機能を強化するため、以下に述べる学長補佐室、IR推進室、大学企画推進室を学長直轄の組織として設置しました。令和6年度は、引き続きこれらの補佐体制を適切に運用することにより、3つのポリシーに基づく学修者本位の教学運営に全学で取り組み、本学の教育の質向上を図りました。さらに、令和6年度から学科会議を発足させて、学科運営の責任体制の明確化を図りました。

ア) 学長補佐室

令和3年度に副学長を中心に学長補佐室を設置して、学内の各種委員会等からの情報収集を行い、学長による教学マネジメントを補佐する体制を整備しました。令和6年度も継続して学内各組織・部署等と連携を図り、学長の補佐機能を強化しました。

イ) IR推進室

IR推進室では、学内各部署との関係を深め、教育・研究活動及び業務運営の向上に資する学内の情報（学生の学修状況調査、卒業時アンケート結果等）を分析し、本学の教育の質保証のために有益となる情報発信に取り組みました。

また、データ分析手法等に関し他大学との意見交換も積極的に取り組み、本学の更なるIR機能の強化に努めました。

さらに、IR推進室の活動を学内に周知する「IR通信」を定期発行しました。

ウ) 大学企画推進室

令和3年度に、本学の教学運営の中長期的な戦略を企画立案し、大学の活動を広く社会へ広報していく役割を担う大学企画推進室を設置しました。令和5年度は、大学創立40周年記念事業について検討しました。令和6年度も引き続き、同事業の企画立案などを行ったほか、IR推進室、アドミッションセンター広報部会ならびに各種委員会と適切な連携を図り、全学的な教職協働のもとでPDCAサイクルの推進に寄与しました。

エ) 情報システム室

令和5年度に設置した情報システム室では、学生の授業等で利用するためのPC端末及び学生が利用しているICT授業支援ツールのサポートを行いました。令和6年度は、授業支援システム及び動画配信システムの契約見直しを行いました。

また、学内ネットワークやコンピュータの管理等を行い、情報教育委員会や各部署と情報共有し学内の更なる環境整備に努めました。

カ) 3つのポリシーの点検と見直し

大学・学部・学科及び大学院研究科の各レベルでディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を定めてホームページ等により公表しています。今年度は、令和6年度から教育課程を変更したはり灸・スポーツトレーナー学科、理学療法学科、作業療法学科、ヘルスプロモーション整備学科の新たなポリシーを公表しました。これらについて、指定規則の改正や学外の視点による点検・評価を参考にして、必要に応じた見直しを引き続き行います。

セ. アクションプランの策定

＜中期計画：領域1 大学の使命：2-1＞

建学の精神を具現化し、優れた医療人を社会に送り出すため、教育の方法と仕組み及び教育環境について、不断の点検と改善の取り組みを行っています。これを計画的に実行していくために、令和6年度も中期計画に基づく5か年のアクションプランを策定し、各プランを担当する学科、部署、組織等において計画を推進しました。

ソ. 高等教育の修学支援新制度への対応

＜中期計画：領域3 学生支援：1-1＞

令和2年4月から高等教育修学支援新制度の対象機関として認定されています。令和6年度も引き続き学生の修学を経済的に支援することができる対象機関となるための確認申請を行った結果、対象校として更新されたことが8月30日に公表されました。

タ. 教員の教育面における評価

＜中期計画：領域7 内部質保証：1-1＞

教員の諸活動への支援と啓発ならびに本学の教育研究活動の改善と質の向上を図ることを目的として、教員の教育面について評価を行うしくみを令和元年度に整備しました。

令和6年度においても前期・後期の授業期間終了時に、学生による「授業評価／満足度評価アンケート」をFD推進委員会と教員評価委員会が共同で実施し、教員の教育面における評価を行う取組みを継続して行いました。

また、例年実施している「教員活動に係る自己評価調査票」による調査では、「教育」「研究」「大学運営」「社会貢献」「診療」の5領域について専任教員が自己点検・評価を行いました。令和5年度の活動を対象とする調査では、全ての専任教員から提出された調査票を教員評価委員会が取りまとめ、令和6年6月に学長及び各学科長へ報告しました。

なお、令和6年度の活動を対象とする調査票は、現在、専任教員が作成中です。

チ. 地域貢献・社会貢献・地域連携

＜中期計画：領域6 社会貢献：1-1、1-2＞

ア) 公開講座の開催

令和6年度公開講座のメインテーマを「未病から先がけの医療へ」、テーマを「健康寿命は、お口でキ・マ・リ！」と題し、以下のとおり開催いたしました。

日 時：令和6年10月19日（土）13:30～16:00

場 所：大学5号館3階講堂

内 容：講演「お口の健康は、健康寿命の第一歩」

講 師 貴島 真佐子 先生

わかくさ竜間リハビリテーション病院 歯科医師

シンポジウム

「毎日できる口腔ケアについて」

赤松 明日香 先生 関西医療学園専門学校歯科衛生学科 学科長

「ムセを防いで健康寿命を延ばそう」

小出 由美 先生 本学保健看護学部保健看護学科 准教授

受講者数 96名

イ) 熊取町との連携

a. 熊取町内連携・協力事業

熊取町からの要望に応じて、各種市民講座などへの講師派遣、行政への協力のほか、定期協議を継続して行っています。

さらに、以下のとおり町内の健康福祉等の事業にも協力しています。

- ① 「熊取町予防接種健康被害調査委員会」委員長
- ② 「熊取町青少年問題協議会」委員に就任
- ③ 「熊取町障害支援区分判定審査会」委員に就任
- ④ 「熊取町保健対策推進協議会」委員に就任
- ⑤ 「熊取町国民保護協議会」委員に就任
- ⑥ 「健康お悩み相談コーナー」開設
- ⑦ 「熊取町防災会議」委員に就任
- ⑧ 「熊取町交通事故をなくす運動」推進本部 理事に就任
- ⑨ 「熊取町献血推進協議会」委員に就任
- ⑩ 「熊取ゆうゆう大学 大学連携講座」「町民文化祭」「環境美化強調月間・路上喫煙禁止街頭啓発キャンペーン」等の町イベントへの協力

b. 熊取町内4大学による連携協力に関する協定の締結

大阪観光大学、大阪体育大学、京都大学複合原子力科学研究所及び本学と熊取町は、これまで個別協定に基づく個々の連携による取組を実施してきましたが、大学間の連携・協力関係をさらに強化することを目的に令和6年7月30日に協定書を締結しました。今後は、「教育、研究に関する相互支援」「教職員研修（FD/S D）の共同実施」「施設・設備の共同利用」「教職員・学生の相互交流」などにおいて相互に連携して取り組んでいく予定です。

c. ミルデューラー市訪問団の受け入れ

今年度は熊取町からの「令和6年度国際交流青少年受入事業」協力要請に伴い、ミルデューラー市訪問団（14名）を令和6年10月15日（火）に教育研究・学修支援センターの国際交流部門が中心となって受け入れました。

ウ) 泉佐野市との包括連携協定の締結

泉佐野市と本学は、令和6年4月2日に包括的な連携に係る協定書を締結しました。今後、市民の健康増進、教育・研究・文化の振興、産業の振興、まちづくりなどの施策に連携して取り組んでいきます。

エ) インターネット放送局 I C O R A との包括連携

令和6年10月31日に「有限会社フクシライフ インターネット放送局 I C O R A と学校法人関西医療学園 関西医療大学との包括連携に関する協定書」を締結しました。今後、相互の物的・人的・知的資源の活用と交流を図り、地域の活性化と持続的な発展に向けた情報発信について連携して取り組んでいきます。

オ) 国際協力機構からの研修員の受け入れ

令和6年度も独立行政法人国際協力機構（JICA）と調整した上で、日系社会研修員受入事業の「鍼灸学」のコース研修員を2名受け入れました。

【研修員出身国】 ブラジル連邦共和国（1名） ボリビア多民族国（1名）

また、昨年度から進めている「草の根協力事業」への応募については、JICA と調整を重ねた結果、本年度の提案は見送りました。

3. 大学附属保健医療施設

＜中期計画：領域6 社会貢献：2-1 附属保健医療施設の運営を改革する＞

本学附属保健医療施設は、大学の臨床教育機関として、また、地域の保健医療機関として重要な役割を果たしています。

令和6年度も引き続き、附属保健医療施設全体で基本理念・行動指針に基づいた患者ニーズに沿った診療・治療体制の確立、介護保険事業の通所リハビリテーションと附属保健医療施設として、日常的な医療機関の連携の確立を目指しました。

(1) 附属診療所の運営

附属診療所は、通所リハビリテーションの実施により、維持期リハビリテーション体制の構築を鑑み、リハビリテーション対策会議を毎月開催しました。

学生の臨床実習においては、当診療所で医療・介護ともに実施での環境下であり、介護保険事業参入により、利用者数の増加に努めました。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが、令和5年5月8日から「5類感染症」に移行しましたが、引き続き、手指消毒およびマスク着用等の感染対策の徹底に努めました。

令和6年6月の診療報酬改定により、生活習慣病管理料が新設され、生活習慣に関する治療計画に基づき、患者の理解と協力を促進し、総合的な治療管理を行いました。

また、コロナウイルスワクチン定期接種に協力し、地域医療の貢献、患者数増加に努めました。

さらに前年度に引き続き、地域及び地域基幹病院と連携強化を図り、当診療所として持っている特有の機能を十分発揮し、紹介や逆紹介、近隣開業医からのMR I (Magnetic Resonance Imaging)・CT (Computed Tomography) 検査の外部オーダー増件等、その役割を有効利用しました。

(2) 附属鍼灸治療所の運営

附属鍼灸治療所では、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後も治療所内の消毒を徹底し、治療施術者及び実習学生は、新型コロナワクチン接種を行うとともに、体温測定・記録などで体調管理を徹底してきました。また、外部PR活動においては、鍼灸関連学会での有効症例の発表や、本学と連携協定を結ぶ有限会社フクシライフ インターネット放送局 ICORA を通じて地域住民への周知などを通じ増患対策に努めてきました。

(3) 附属接骨院の運営

附属接骨院では、引き続き感染防止対策を徹底し、院内での施術、運動指導、アロマセラピー施術を充実・強化し、また、附属診療所・附属鍼灸治療所と連携することによって、患者数の増加を図りました。

外部へのPR活動と地域での健康増進活動の一環として実施しているここトレ運動教室（ここから始めるトレーニング教室）について、前年度より回数を増やし、今年度は、9月・11月・12月・2月・3月に開催し、積極的に地域医療や健康増進に貢献できるように取り組みました。

(4) 危機管理体制の充実・強化

毎月、感染対策委員会・医療安全管理委員会を開催しており、また、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、ICT (Infection Control Team) 会議を開催し、令和6年度も感染対策、医療安全の強化・充実を図りました。

(5) 広報活動の推進

令和6年度も引き続き、広報活動の費用対効果を考慮し、附属保健医療施設として効果のある広告へとシフトしてより認知度の向上を図りました。

- ア. インターネット放送局 ICORA を通じての地域住民への P R
- イ. 近隣ボランティア活動の会と交流、地域住民への P R
- ウ. 運動教室・公開講座・校友会事業参加者等への P R
- エ. W e b による P R
- オ. 鍼灸関連学会での有効症例の報告
- カ. 地域情報誌等への P R
- キ. 地域医療機関及び居宅介護事業所との連携
- ク. 介護支援事業者等へのリーフレット P R

4. 専門学校

専門学校では、全教職員が建学の精神を共有し、時代の変化に対応した選ばれる学校になることを常に意識し、質の高い養成教育の提供に努めるため、以下の取り組みを行いました。

(1) 令和 6 年度における養成教育について

ア. 将来構想の検討

＜中期計画：領域 6 将来構想：目標 1、2、3＞

将来構想検討委員会および入学試験委員会において、入学者が欠員となっている柔道整復学科・東洋医療鍼灸学科の学生募集の検討において、各学科の教育内容の特色と生徒のニーズを考えた科目内容の精査を行いました。また、新規学科の設置についても継続して検討を行いました。

イ. 自己点検・評価

＜中期計画：領域 1 専門学校の使命：目標 1／領域 3 生徒支援：目標 2／

領域 4 内部質保証：目標 1、2／領域 6 将来構想：目標 1、2、3＞

1) 自己点検・評価の実施

自己点検・評価委員会において、令和 5 年度の評価をまとめて報告書を公表しました。理学療法学科については、養成施設指導ガイドラインに基づく指定様式による報告書を公表しました。自己点検の資料として実施した生徒アンケートによる授業満足度評価については、校内に掲出するとともに、非常勤教員を含む科目担当教員に対してフィードバックを行いました。

2) 第三者評価の受審

外部評価機関による評価について、理学療法学科はリハビリテーション教育評価機構による更新審査を受審し、適合 S（最上位評価）の認定を受けました。

3) 外部関係者の意見の反映

全学科において、学校関係者評価委員会を開催しました。また、職業実践専門課程の東洋医療学科・東洋医療鍼灸学科および柔道整復学科では、教育課程編成委員会を開催しました。各委員会における外部委員の意見を今後の学校運営に活かしていきます。

ウ. S D ・ F D 研修等

＜中期計画：領域 1 専門学校の使命：目標 1、2、3／領域 2 養成教育：目標 1、3

／領域 3 生徒支援：目標 2、4／領域 5 管理運営：目標 3＞

1) 学校運営研修『アンガーマネジメント』

(令和 6 年 5 月 12 日 web 視聴／講師 日本アンガーマネジメント協会公認講師 小尻美奈氏)

2) ハラスメント防止研修 (令和 6 年 7 月 6 日／講師 大阪企業人権協議会特任講師 金井敬三氏)

3) 学校運営研修『保護者対応のあり方』

(令和 6 年 7 月 27 日 web 視聴／講師 弁護士 小美野達之氏)

- エ) コンプライアンス研修 (令和6年8月1日/講師 大阪府司法書士会司法書士 萬田英伸氏)
- オ) 歯科衛生学科研修『デンタルエステ』(令和6年9月21日/講師 専任教員 西 裕子)
- カ) 新就学支援関係事務研修 (令和6年10月5日/講師 学務課就学支援事務担当)
- キ) 理学療法学科研修『グーグルクラスルームを用いた教材・課題の活用』
(令和6年10月5日/講師 臨床教育部長 弓永久哲)
- ク) 学校運営研修『シェアド・リーダーシップとは?』
(令和6年10月26日 web 視聴/講師 立教大学教授 石川淳氏)
- ケ) 学校運営研修『やる気に満ちた学校のために明日からできる三つのこと』
(令和6年11月2日 web 視聴/講師 南山大学教授 安藤史江氏)
- コ) 広報活動研修『SNS活用で入学志願者数増加&リスク管理について』
(令和7年3月24日/講師 (株)Five GROUP 津川将之介氏 ・ (株)PEJIT 山口真平氏)

エ. 外部団体教員研修会の受講 <中期計画：領域2 養成教育：目標1/領域3 生徒支援：目標2
/領域5 管理運営：目標3>

- ア) 全国歯科衛生士教育協議会専任教員講習会 (令和6年8月19日～23日 東京)
- イ) 東洋療法学校協会教員研修会 (令和6年8月8日～9日 大阪【本校主管】)
- ウ) 全国リハビリテーション学校協会教員研修会 (令和6年8月30日～31日 広島)
- エ) 全国柔道整復学校協会教員研修会 (令和6年9月21日～22日 東京)
- オ) 全国リハビリテーション学校協会教員研修会『インストラクショナル・デザインって何だ』
(令和7年2月～3月 web 視聴/講師 千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター 下井俊典氏)
- カ) 全国リハビリテーション学校協会近畿ブロック教員研修会『学校における合理的配慮について』
(令和7年3月13日 web 視聴/講師 東京都立大学教授 伊藤祐子氏)

オ. 教育講演会の開催 <中期計画：領域1 専門学校の使命：目標2、3/
領域3 生徒支援：目標1/領域5 管理運営：目標3>

生徒の学修意欲を高め、充実した学校生活を支援する目的で、入学式終了後に新入生を対象とした教育講演会(講師 日本教育推進財団会長、ヒューマン・スキル・カレッジ代表取締役坂東弘康氏)を開催し、教職員についても研修の一環として、この講演を聴講しました。(令和6年4月6日)

カ. 臨床研修等 <中期計画：領域2 養成教育：目標1、3/
領域3 生徒支援：目標4/領域5 管理運営：目標3>

専任教員は医療提供施設および教育機関等において臨床研修・研究を行い、養成教育に還元するよう努めるとともに、学会発表等によりキャリアアップに努めました。

キ. 専任教員講習の受講 <中期計画：領域2 養成教育：目標1、3/
領域3 生徒支援：目標4/領域5 管理運営：目標3>

理学療法学科教員助手2名について、指定規則に基づく理学療法士作業療法士専任教員講習会(受講期間 令和6年12月～令和7年2月)を受講し、養成施設専任教員資格の認定を受けました。

ク. 生徒に対する支援 <中期計画：領域3 生徒支援：目標1、2、3、4 /領域5 管理運営：目標2>

ア) 高等教育修学支援新制度

対象校としての機関要件について、継続認定を受けました。

イ) 経済的支援

a. 特待生

学業成績が優秀で学校生活において他の模範となった在校生について、次のとおり授業料の減免を行いました。

東洋医療学科 2年2名、3年1名

東洋医療鍼灸学科 2年2名、3年2名

柔道整復学科 2年1名

理学療法学科 2年4名、3年3名

歯科衛生学科 2年1名

ウ) 教育訓練給付金

教育訓練給付金制度に係る指定講座について、東洋医療学科および東洋医療鍼灸学科が継続して認定を受けました。

エ) 学修支援

理学療法学科および歯科衛生学科では、校外臨床実習施設と連携して質の高い実習教育を行うことを目的として、臨床実習指導者調整会を開催しました。

オ) 保護者懇談会の開催

全学科において、入学式終了後に保護者懇談会を開催して、本校の教育方針と指導内容について、各家庭と共通した認識で生徒支援を行うことができるよう保護者との意思疎通を図りました。

カ) 就職支援

施術者の求人先を集めた就職合同説明会を2回にわたり開催しました。また生徒の希望と適性を考慮した就職支援を行うため、ガイダンス及び個人面談の実施のほか、履歴書・小論文の添削及び模擬面接を実施しました。

また、専門的なキャリア支援を行うことを目的として、専任教員1名（柔道整復学科がキャリアコンサルタントの資格を取得しました。

令和6年度卒業生の就職状況は次のとおりです。（進学は本校を含む医療系専門学校等への進学者を示します。）

a. 東洋医療学科・東洋医療鍼灸学科

卒業生数	就 職				進 学	そ の 他
	病 院 診 療 所	施 術 所	開 業	そ の 他		
46名	3名	32名	2名	5名	1名	3名

b. 柔道整復学科

卒業生数	就 職				進 学	そ の 他
	病 院 診 療 所	施 術 所	開 業	そ の 他		
10名	0名	7名	0名	2名	0名	1名

c. 理学療法学科

卒業生数	就 職				進 学	そ の 他
	病 院	診 療 所	介護老健 介護医療院	障 害 児 入所施設		
31名	25名	3名	1名	2名		0名

d. 歯科衛生学科

卒業生数	就 職				進 学	そ の 他
	病 院	歯 科 診 療 所	介護保険 施 設	保健所等 行政機関		
24 名	0 名	20 名	0 名	0 名		4 名

(2) 生徒募集活動について

ア. オープンキャンパス・入学相談会

<中期計画：領域5 管理運営：目標1>

オープンキャンパスは、東洋医療（鍼灸）学科・柔道整復学科合同、理学療法学科、歯科衛生学科の別に開催し、8月からは参加者に対し交通費の補助としてクオカードを配布しました。

また、学科別のオープンキャンパスとは別に、高校1・2年生を対象とした養成資格（仕事）の説明を目的としたオープンキャンパスを開催しました。（令和6年8月17日）次年度は、社会人も含めたに企画として開催する予定です。

本年度開催のオープンキャンパスの参加者数は下記のとおりです。

（単位：人／参加者数は同伴者は除く・括弧内の数字は前年度比を示す）

	東洋医療(鍼灸)学科	柔道整復学科	理学療法学科	歯科衛生学科	合 計
4 月 度	5(- 5)	1(-10)		7(+ 4)	13(-11)
5 月 度	15(- 5)	1(- 5)		27(+ 9)	43(- 1)
6 月 度	14(± 0)	12(+ 2)	36(± 0)	15(- 5)	77(- 3)
7 月 度	8(- 8)	7(- 3)	10(-19)	19(+ 1)	44(-29)
8 月 度	13(- 8)	10(- 3)	19(-14)	23(- 2)	65(-27)
9 月 度	14(+ 5)	1(- 5)		6(- 8)	21(- 8)
10 月 度	8(+ 4)	3(+ 1)		9(+ 2)	20(+ 7)
11 月 度	4(- 4)	0(- 1)		1(- 1)	5(- 6)
12 月 度	7(+ 6)	0(- 1)		6(実績なし)	13(+11)
3 月 度	9(± 0)	3(± 0)	11(-11)	2(-14)	25(-25)
合 計	97(-15)	38(-25)	76(-44)	115(-8)	326(-92)

イ. 広報活動

<中期計画：領域5 管理運営：目標1>

生徒募集広報について、多くの人の通行がある長居公園の入口付近の案内広告板に学校名・学科名の広告案内の設置を新規に行いました。

(3) 行政庁への申請・届出

ア. 専修学校関係

歯科衛生学科の専門士の称号付与申請（文部科学大臣）

イ. 養成所関係

<中期計画：領域3 生徒支援：目標1>

㊦ 理学療法学科臨床実習施設の変更申請（大阪府知事）

㊧ 歯科衛生学科臨床実習施設の変更申請（大阪府知事）

㊨ 理学療法学科臨床実習指導者の変更届出（大阪府知事）

ウ. 就学支援金関係等

<中期計画：領域5 管理運営：目標2>

高等教育修学支援新制度に係る機関要件校の確認申請（大阪府知事）

(4) その他

ア. 学校協会関係

本年度の東洋療法学校協会教員研修会を本校の主管により開催しました。（令和6年8月8日～9日／大阪ガーデンパレス）

イ. 施設設備関係

<中期計画：領域2 養成教育：目標2 領域5 管理運営：目標4>

別館校舎トイレ設備の改修工事を中期計画に基づき実施しました。また、同校舎のエレベーター設備については中期計画を前倒しして更新工事を行いました。

5. 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況

(1) 大学・大学院の中期計画（概要）

関西医療大学・大学院は、建学の精神を具現化し、学則に掲げた使命・目的を果たすため、「大学の使命」「教育」「学生支援」「研究」「管理運営」「地域連携」「内部質保証」の7つの領域を柱とする5か年中期計画を策定しています。それぞれの領域には中期計画を達成するための大目標と小目標を体系的に掲げ、単年度の具体的な行動計画としてのアクションプランを策定して教職員が一丸となって目標の達成に努めています。令和6年度は5か年中期計画第1期の最終年度となりました。

ア. 「大学の使命」に関する中期計画

本学は、建学の精神のもと、学則に掲げた使命・目的を達成して社会の要請に応えていくため、学長のリーダーシップのもとに大学のガバナンス体制の強化を図り、本学が掲げるカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）とアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に沿った一貫性ある教育を体系的かつ組織的に実践し、ディプロマ・ポリシー（卒業（又は修了）認定・学位授与の方針）に掲げる資質と能力を身につけた医療人を育成して地域医療の発展に貢献することを目指しています。

イ. 「教育」に関する中期計画

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（平成30年11月26日中央教育審議会答申）の中心的課題として掲げられた「学修者本位の教育の実現」に向けた教育改革を推進するため、学生の学修成果と教員の教育成果の把握と可視化を促進し、学生が快適な教育環境の中で主体的な学修力を身につけ、ディプロマ・ポリシーに沿った質の高い医療人として成長することができる教育システムの構築を図っています。また、令和4年10月に改正された大学設置基準に基づく改革を推進しています。

ウ. 「学生支援」に関する中期計画

学生が有意義で満足度の高い学生生活を送りながら、社会的・職業的自立に向けて必要となる一般教養、専門知識、技能、態度を身につけた人格を形成し、個々が目指す医療資格等を取得して卒後に社会の一員として活躍する姿を実現できるよう、教職員が一体となった教職協働体制の下で学生が主体的に学修を行うための教育支援、学生生活の充実に関する支援、キャリア形成と就職・進学に関する支援等の取組みの強化を図り、それらの成果の向上を目指しています。

エ. 「研究」に関する中期計画

研究者としての教員が、研究倫理とコンプライアンスに対する高い意識を持ち、研究に専念できる健全で公正な研究環境と研究体制を整備すると共に、得られた成果を学部・大学院の教育に還元し、学内の研究活動と教育の接続を強化することを目指しています。また、現在、学部・学科横断的に組織している研究ユニットの特性を活かした自由な研究体制のもと、競争的資金の一層の獲得を目指し、独創的な研究活動を活性化しています。

オ.「管理運営」に関する中期計画

安定した財務基盤に基づいた大学経営を行うため、本学の志願者募集力の強化を図り、各学部・学科において定員を適正に充足する入学生の確保と入学後の収容定員の維持に努めています。また、大学の管理運営の業務担当者である事務職員が適切な職場環境の中で、個々の資質と能力の向上を目指すための支援を推進しています。さらに、キャンパスの安心、安全な環境を保つため、自然災害発生等のリスクに備える体制や個人情報保護の体制の一層の強化を図っています。

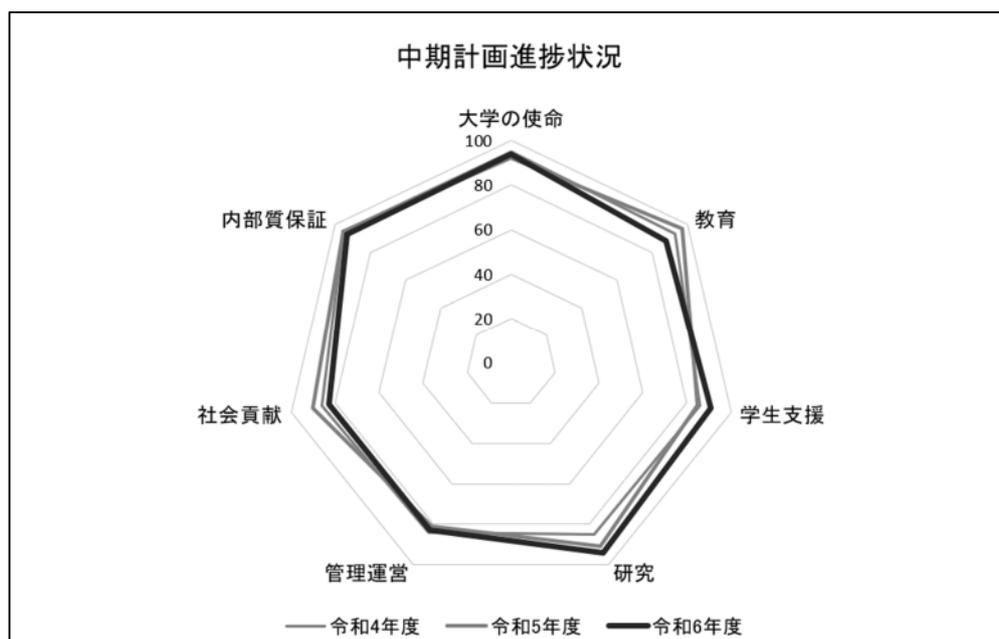
カ.「社会貢献」に関する中期計画

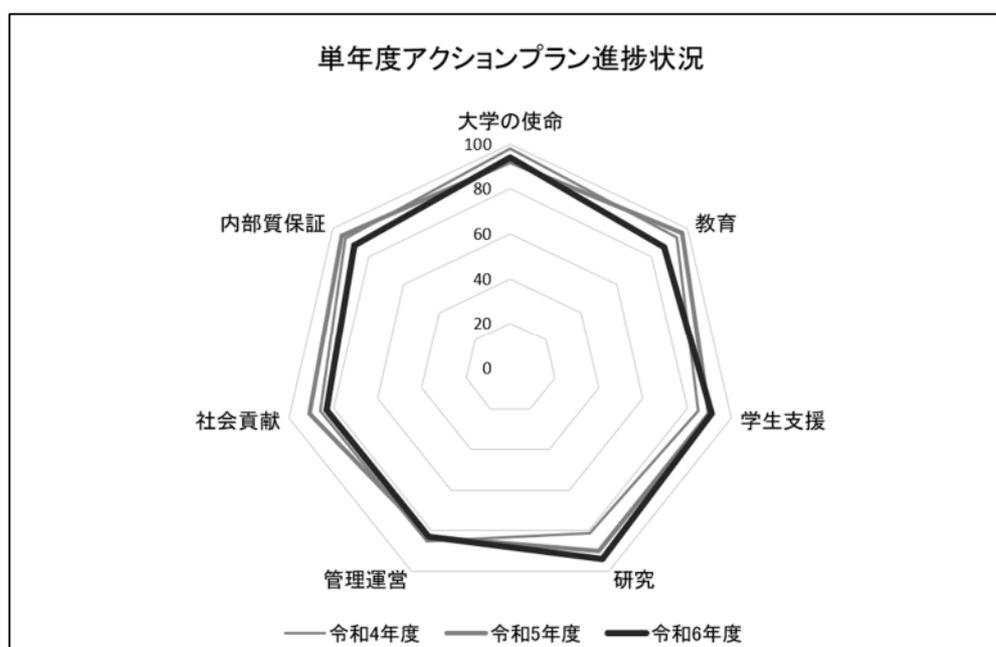
大学は、社会に開かれた存在として地域と連携して地域住民の理解を得ることで存続し発展できるという観点から、本学における教育研究成果の一端を地域社会及び地域住民に還元することにより、地域に密着した大学として地域社会のより一層の発展に貢献していくことを目指しています。

キ.「内部質保証」に関する中期計画

本学の学部、学科、各種委員会及び事務の各部署等の学内組織による中期計画の目標達成に向けた取組みについて、活動の進捗状況と成果に関する自主的かつ定期的な点検・評価を行い、学内の組織単位におけるPDCAを自律的に機能させて課題の改善に努め、内部質保証の推進を図っています。また、法令に基づき、外部評価機構による認証評価を定期的に受審して評価結果を公表しています。このことにより、本学の教育研究と管理運営が大学の使命と目的を達成できる水準にあることを示し、高等教育機関としての社会的責任を果たしています。

(2) 大学・大学院中期計画及び単年度アクションプランの進捗状況





ア. 大学の使命

令和6年度は本領域に大目標2件、小目標3件、アクションプラン5件を策定し、領域全体として順調に計画を遂行しました（A評価）。具体的には新入生と新任教職員に対する建学の精神を周知する取組みを実施しました。教学運営に関しては従前の教務委員会を廃止して新たに設置した学科会議による運営を開始することにより、教学ガバナンス体制の強化を図りました。また、前年度において全学的に実施した3つのポリシーの見直し内容を反映させた新たなポリシーの運用を開始しました。さらに、令和7年度の大学創立40周年を控え、関連する記念事業の企画立案を開始しました。

イ. 教育

令和6年度は本領域に大目標4件、小目標8件、アクションプラン13件を策定し、領域全体として概ね順調に計画を遂行しました（B評価）。具体的には教育の質向上のためのICT教育環境を整備し、学生の学修成果と組織的なFD活動による教員の教育力の向上を図りました。保健医療学部の4学科においては教育課程を見直して情報リテラシーとデータサイエンス、初年次教育、キャリア形成に関連する新たな科目を取入れたカリキュラムの運用を開始しました。図書館では学生スタッフの協力を得た取組みを強化して利用者の増員を図りました。また、改正大学設置基準に沿って学年暦を柔軟に編成するための議論を開始しました。さらに、経年変化で老朽化が進む施設設備の改修を進めたほか、節電・省エネの取組みも推進しました。

ウ. 学生支援

令和6年度は本領域に大目標3件、小目標5件、アクションプラン12件を策定し、領域全体として順調に計画を遂行しました（A評価）。具体的には学生の学修実態を把握した指導とリメディアル教育の実施などの学修支援に取り組んだほか、医療系国家資格を取得する指導の強化とキャリア支援の充実を図り、3学科の5資格で合格率100%を達成しました。

休退学の予防については学科ごとに対策を講じたことにより、学部全体では前年度比で 0.73 ポイントの改善が得られました。

エ. 研究

令和 6 年度は本領域に大目標 2 件、小目標 5 件、アクションプラン 8 件を策定し、領域全体として順調に計画を遂行しました (A 評価)。具体的には学内で公正な研究活動を行う環境を維持しながら不正防止対策会議が立案した研究不正防止計画を実行しました。科研費への申請件数は 28 件であり、うち 6 件が新規採択されました (採択率 21.4%)。大学院研究科においては博士後期課程が開設され、文部科学省による設置計画履行状況等調査 (令和 7 年 3 月 25 日公表) では指摘事項は付きませんでした。また、一部のコースにおいて教育訓練給付制度 (専門実践教育訓練) が認可され、大学院生の経済的負担の軽減に大きく寄与することになりました。さらに、次年度からの運用に向けて新たな研究体制を構築し、規程等の規則を整備しました。

オ. 管理運営

令和 6 年度は本領域に大目標 4 件、小目標 8 件、アクションプラン 13 件を策定し、領域全体として概ね順調に計画を遂行しました (B 評価)。具体的には学生募集活動について高校訪問やオープンキャンパスの強化を図り、令和 7 年度入学定員充足率を 1.06 としました。SD 活動については新任教職員研修会、SD 研修会ともに参加率は 100% でした。危機管理については、危機管理マニュアルの整備が遅れ、次年度に引き継ぐこととなりました。

カ. 社会貢献

令和 6 年度は本領域に大目標 2 件、小目標 3 件、アクションプラン 4 件を策定し、領域全体として概ね順調に計画を遂行しました (B 評価)。具体的には本学が所在する地域の 4 大学間において、相互支援による教育研究活動の充実を図るため、新たに連携協定を締結しました。また、大学キャンパスにおいて対面式の公開講座を開催し、学園祭を通じて地域住民との交流を図りました。附属保健医療施設では診療所、鍼灸治療所、接骨院の 3 部門それぞれが地域医療と健康増進に貢献しました。

キ. 内部質保証

令和 6 年度は本領域に大目標 1 件、小目標 2 件、アクションプラン 3 件を策定し、領域全体として概ね順調に計画を遂行しました (B 評価)。具体的には中期計画/アクションプランを遂行するための PDCA サイクルを回し、各部署・組織における点検・評価と改善を推進しました。令和 5 年度認証評価における指摘事項の改善策として、特に収容定員未充足への対応では当該学科の広報活動の強化を図ることで入学者数を前年度比 1.73 倍の 33 人 (充足率 0.82) としたほか、令和 8 年度から新教育課程を導入するための申請準備を行いました。また、今年度から開始される認証評価第 4 サイクルの評価システムについて情報収集を行いました。なお、5 か年中期計画第 1 期の総括は次年度の課題に送ることとしました。

(3) 大学・大学院の中期計画（領域・目標）進捗状況

<5か年中期計画・評価基準>

- S評価: 特筆すべき進捗状況にある。(100%以上)
- A評価: 順調な進捗状況にある。(90~99%)
- B評価: 概ね順調な進捗状況にある。(80~89%)
- C評価: 進捗がやや遅れており改善の必要がある。(60~79%)
- D評価: 進捗が著しく遅れており大幅な改善が必要である。(60%未満)

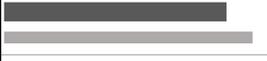
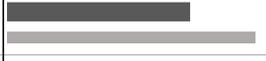
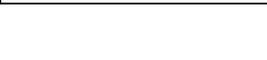
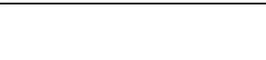
<単年度アクションプラン・評価基準>

- S評価: 計画を大幅に上回って達成している。(100%以上)
- A評価: 計画を達成している。(90~99%)
- B評価: 計画を概ね達成している。(80~89%)
- C評価: 計画をやや下回っており改善の必要がある。(60~79%)
- D評価: 計画を大幅に下回っており大幅な改善の必要がある。(60%未満)

領域	5か年中期計画 進捗状況評価					単年度アクションプラン 達成状況評価									
	0	50	60	70	80	90	100%	0	50	60	70	80	90	100%	
1. 大学の使命	(上段: 令和6年度)					A					A				
	(下段: 令和5年度)					A					A				
2. 教育	B					A					B				
3. 学生支援	A					B					A				
4. 研究	A					A					A				
5. 管理運営	B					B					B				
6. 社会貢献	B					A					B				
7. 内部質保証	A					A					B				

領域	大目標	0	50	60	70	80	90	100%	0	50	60	70	80	90	100%
1	1. 大学の使命と目的の達成	A							A						
		B							B						
	2. 3つのポリシーの実質化	A							A						
		A							A						
2	1. 教育改革の推進	A							B						
		A							A						
	2. 教育環境の整備	A							A						
		A							A						
	3. 教学情報の発信	A							A						
		S							S						
	4. 学年暦編成の柔軟化	C							C						
		A							A						
3	1. 学修支援の取組みの強化	A							A						
		A							A						
	2. 学生生活支援の取組みの強化	B							B						
		C							B						
	3. キャリア支援の取組みの強化	A							A						
		A							A						
4	1. 研究活動の支援の強化	A							A						
		A							A						
	2. 大学院の充実	A							A						
		B							B						
5	1. 財政基盤の安定化	B							B						
		C							C						
	2. 職員の資質と能力の向上	C							C						
		B							B						
	3. 危機管理の強化	B							B						
		A							A						
	4. 改正大学設置基準への対応	B							B						
		C							C						
6	1. 地域連携・地域貢献の推進	C							C						
		B							B						
	2. 附属保健医療施設の改革	A							A						
		A							A						
7	1. 内部質保証の強化	A							B						
		A							A						

領域	大目標	小目標	0	50	60	70	80	90	100%	0	50	60	70	80	90	100%
1	1	1. 建学の精神の周知を図る	A							A						
			B							B						
	2. ガバナンス体制の強化を図る		A							A						
		A							A							

	2	1. 教学マネジメント体制を確立する	 A A	 A A	
2	1	1. 学生の学修成果を把握して可視化する	 B A	 C A	
		2. 教育の質を向上させる	 A A	 A A	
		3. 教育課程の改善を図る	(未設定)	(未設定)	
		4. 数理的、論理的思考を養う教育を強化する	(未設定)	(未設定)	
	2	1. 施設・設備を適切に管理する	 A A	 A A	
		2. キャンパスの教育環境を充実させる	 A A	 A A	
	3	1. 教学IR機能を確立する	 A S	 A S	
	4	1. 学年暦編成の柔軟化を図る	 C A	 C A	
	3	1	1. 学生の自律的な学修力を高める	 A A	 A A
			2. 各種資格等を取得する支援を推進する	 B B	 B B
3. DXを目指した学修プログラムを構築する			 A A	 A A	
2		1. 退学者・休学者等を減少させる	 B C	 B B	
3		1. 学生のキャリア支援を推進する	 A A	 A A	
4	1	1. 適正な研究活動を支援する	 A A	 A A	
		2. 特殊医療分野に関する研究体制を構築する	 A A	 A A	
	2	1. 学部教育への還元を図る	 A C	 A C	
		2. リカレント教育を充実させる	 A A	 A A	
		3. 大学院博士後期課程を設置する	 A S	 A A	
	5	1	1. 入学志願者を確保する	 A C	 A C
2. 安定した財務基盤を維持する			 B C	 B C	
3. 外部資金獲得の取組みを強化する			 C B	 C B	
2		1. 職員の業務能力の向上を図る	 B B	 B B	
		2. 事務の業務の適正化を図る	 C B	 B B	
3		1. 危機管理体制を強化する	 C B	 C A	
		2. 個人情報適切に管理する	 A A	 A A	
4		1. 基幹教員制度を導入する	 B C	 B C	
6		1	1. 地域社会との連携を推進する	 C B	 C B
			2. 地域住民との交流を推進する	 B B	 C A
	2	1. 附属保健医療施設の運営を改革する	 A A	 A A	
7	1	1. 内部質保証システムを確立する	 A A	 B A	
		2. 第三者機構による認証評価を受審する	 A A	 A A	

		3122.1	付加資格の試験合格者を向上させる（臨床検査学科）		A C		
		3122.2	付加資格の試験合格者を向上させる（はり灸・スポーツトレーナー学科）		A C		
		3122.3	付加資格の試験合格者を向上させる（ヘルスプロモーション整備学科）		B S		
	3	3131	DXを目指した学修プログラムを構築する		A A		
	2	1	3211	退学・休学の予防対策を推進する		B B	
	3	1	3311	キャリア支援イベントを充実する		A A	
			3312	学生、大学、求人施設間のネットワークを強化する		A A	
			3313	医療職以外への就職希望者に対応する		A A	
	4	1	1	4111	研究倫理教育を推進する		A A
			4112	研究不正防止コンプライアンスを強化する		A A	
		4113	競争的資金の獲得を推進する		A A		
	2	4121	特殊医療分野の研究センターを設置する		A A		
	2	1	4211	学部教育との接続を強化する		A A	
		2	4221	リカレント教育の学費軽減を検討する		A A	
		4222	リカレント教育の授業形態を検討する		B B		
	3	4231	大学院博士後期課程を設置する		A A		
5	1	1	5111	募集力強化の取組みを推進する		A C	
		5113	入試制度を改革する		A A		
		5114	高校訪問及びオープンキャンパス等の広報活動の強化と志願者増を図る		A C		
	2	5121	収容定員を適正に維持する		B C		
	3	5131	寄附金の獲得を推進する		C B		
	2	1	5211	外部研修会等への参加を推進する		A A	
		5212	担当業務に関連する資格取得を推進する		B B		
		5213	SD活動を推進する		B B		
	2	5221	労働時間の適正化を推進する		C B		
	3	1	5311	自然災害への備えを推進する		C A	
		5312	防災・避難訓練を推進する		C A		
	2	5321	個人情報の保護体制を強化する		A A		
	4	1	5411	基幹教員制度を導入する		B C	
6	1	1	6111	高大連携事業を推進する		C B	
	2	6121.1	地域における交流行事を継続する(学生生活委員会)		C A		
		6121.2	地域における交流行事を継続する(総務部総務課)		B A		
	2	1	6211	附属保健医療施設の運営を点検し改革を推進する		A A	
7	1	1	7111	自律的なPDCAサイクルを機能させる		B A	
	2	7121	日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審する		B A		
		7122	リハビリテーション教育評価機構による評価を受審する		A A		

(5) 専門学校の中期計画

関西医療学園専門学校は、医療資格者の養成施設（養成所）として、建学の精神のもと、質の高い教育の提供と時代に対応できる学校運営に取り組むため、「専門学校（養成施設（養成所）の使命」「養成教育」「生徒支援」「内部質保証」「管理運営」「将来構想」の6つの領域に関する中期計画を策定しています。

この計画を実践するため、教職員が共通した認識のもと、その遂行に努め、年度毎の自己点検・評価を含めて、必要な改善を早期に行うことができるよう努めています。

ア. 「専門学校（養成施設（養成所）の使命」に関する中期計画

医療資格者を養成する本校は、建学の精神（「社会に役立つ道に生きぬく奉仕の精神」）に基づき、医療技術を通じて国民の保健衛生に寄与する有為な人材を育成することを目的とするを学則に掲げ、養成教育の使命と目的を通じて、専修学校及び養成施設として社会に果たす役割を自覚し、有為な人材を輩出することを目指しています。

令和6年度は、この領域に3件の目標を掲げて計画を実行しました。

イ. 「養成教育」に関する中期計画

「これからの専修学校の振興のあり方について」（文部科学省 平成29年3月28日これからの専修学校教育の振興のあり方検討会議（報告））で掲げられた3本柱「人材養成（専修学校教育の人材養成機能の向上）」「質保証・向上（専修学校教育の質保証・向上）」「学習環境（学びのセーフティネットの保障）」を踏まえて、医療資格者養成教育としての教育体制の充実、実践的職業教育の強化、学修環境の整備を図っています。

令和6年度は、この領域に3件の目標を掲げて計画を実行しました。このうち、国家試験合格率の向上と維持については、全国平均を大幅に下回る結果となった資格試験があり、単に試験対策にとどまらず教育課程の編成自体の早急な見直しを行うことを確認しました。

ウ. 「生徒支援」に関する中期計画

本校では、生徒が安心して学修し、有意義な学校生活を送れるよう学生相談員の配置をはじめ、教職員全体で支援していますが、学修面・就職面のより一層の強化を図っています。

令和6年度は、この領域に5件の目標を掲げて計画を実行しました。

エ. 「内部質保証」に関する中期計画

本校における学科、各種委員会及び事務組織等の校内組織による中期計画の目標達成に向けた取り組みについて、諸活動の進捗状況と成果に関する点検・評価を行っています。これにより、本校が使命を達成し、質の高い教育を行うことにより、社会的責任を果たすことを目的としています。

令和6年度は、この領域に2件の目標を掲げて計画を実行しました。

オ. 「管理運営」に関する中期計画

安定した財務基盤に基づいた校内経営を行うため、積極的かつ効果的な広報戦略により、入学定員の充足に努めるとともに、入学者については収容定員の維持に努めています。この

ため、生徒支援を担当する教職員のスキルアップを図り、また教育環境の整備と安全性の確保を図っています。

令和6年度は、この領域に4件の目標を掲げて計画を実行しました。

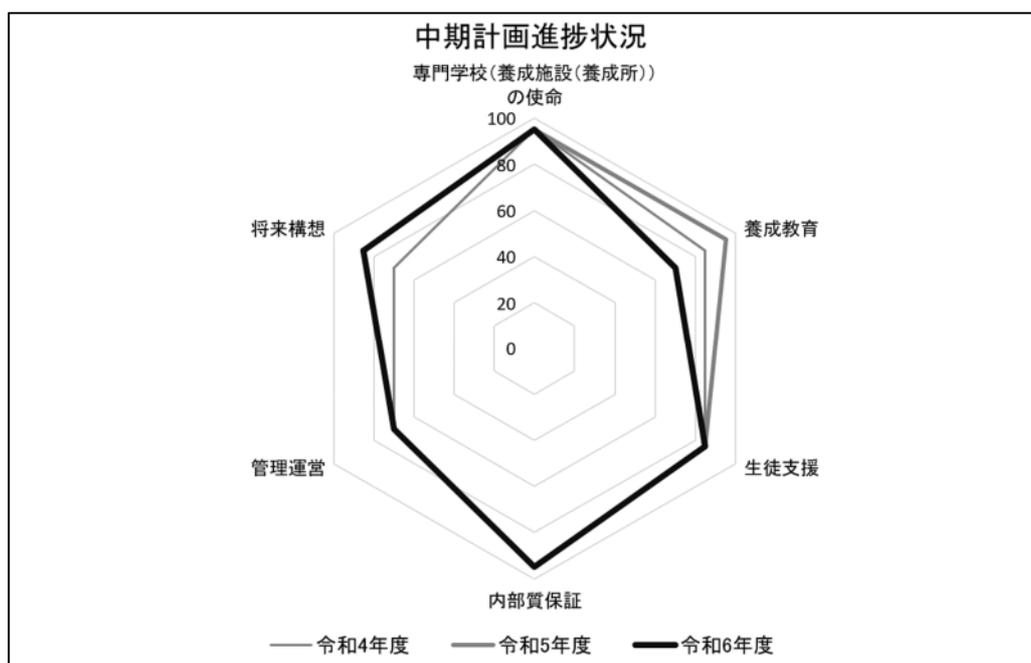
カ. 「将来構想」に関する中期計画

本校は、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師、柔道整復師、理学療法士、歯科衛生士の養成施設（養成所）ですが、同種の資格者を養成する学校・養成施設は、大学・専門職大学・短期大学・専修学校と多様で学校数も急増しており、また少子化による18歳人口の減少もあって、各学科ともに入学者の確保については困難な環境にあります。

これに対応するため、既設学科の再編及び教育課程の精査を行うとともに、入学定員の見直しについても慎重に検討しています。また、完成年度を迎えた新設学科（歯科衛生学科）については、教育課程の精査を行うとともに財務的にも安定的な運営ができるように努めています。

令和6年度は、この領域に4件の目標を掲げて計画を実行しました。

(6) 専門学校中期計画の各領域における進捗状況



ア. 養成施設（養成所）の使命

- ・「社会に役立つ道に生きぬく奉仕の精神」という建学の精神を全教職員が共通した認識をもって行動しました。
- ・新たな視点で取り組みを行うことについて、個々の教職員がその必要性を意識するようになりました。
- ・事務担当者による調整会を月例で開催し、部署間の調整を行い、情報共有を図りました。

イ. 養成教育

- ・ICT教育に対応できる指導力を養うため、校内でのSD活動及び学校協会等での研修を通して、教員力の向上に努めました。
- ・校外実習施設（病院・診療所・歯科診療所・介護保険施設・施術所等）との連携を強化して実習教育の充実を図りました。
- ・養成施設指導ガイドラインに基づく「主たる臨床実習施設」を配置して実践的な臨床実習の機会を確保しました（理学療法学科）。
- ・理学療法学科について、2025年度入学生から適用する教育課程の変更を行政庁に申請して承認を受けました。
- ・教育課程進度表に基づく教科関連図の作成により、効果的な教育の実践するとともに、学年ごとに在籍生徒の習熟度を考慮した授業及び評価を行うよう努めました。
- ・生徒の成績評価一覧について、グラフ化した資料を作成することにより、過年度の評価と比較することが可能になり、指導方法を見直しするうえで有益となりました。
- ・タブレットを使用した授業、教材配信及び課題の提出など、本格的な運用を開始しました（歯科衛生学科・理学療法学科）。

ウ. 生徒支援

- ・入学前教育としてプレスクールの実施、入学後に教科に興味をもたせることができるような内容の課題作成などを行い、新入生が安心した環境で修学をできるよう努めました。
- ・クラス担任（副担任）及びチューター、生徒相談員（教員）による生徒の個別面談を実施し、生徒の就学状況の把握に努めました。
- ・理学療法学科の就職支援として、ガイダンス・個別面談の実施、外部講師によるスキルアップ講座の開催、就職模擬面接及び小論文の添削などを行い、可能な限り就職支援の個別化に努めたほか、柔道整復学科においても履歴書の書き方指導等の支援を実施しました。
- ・歯科衛生学科の就職支援として、ガイダンス・個別面談及び外部業者による就活支援講座を開催しました。
- ・校内で施術所及び介護事業者を集めた合同就職説明会を二回にわたり実施し、生徒の意識を高めることができました（東洋医療学科・東洋医療鍼灸学科、柔道整復学科）。
- ・効率的な学務事務を行うため導入した基幹業務システムについて、定期的な見直しにより、改善運用するところとなりました。

エ. 内部質保証

- ・自己点検評価委員会により、2023年度の点検結果を取りまとめ、ホームページで公表しました。
- ・理学療法学科では指導ガイドラインに基づく自己点検評価の結果公表に加え、リハビリテーション教育評価機構による認定評価の更新審査を受審しました。
- ・生徒に対して実施した授業アンケート集計及び対応について校内に掲出するとともに、科目担当教員にフィードバックを行いました。
- ・学校関係者評価委員会において、校外構成委員から管理・教学両面について幅広い意見

を聴取して、今後の本校運営の貴重な資料としました。

- ・新修学支援制度に係る大阪府補助金の交付について、大阪府教育庁による実地検査を受け、適正に執行されていることの認定を受けました。
- ・歯科衛生学科の完成年次により、同学科修了者に対する専門士の称号付与について文部科学大臣に申請して大臣告示を受けました。

オ. 管理運営

- ・歯科衛生学科について、積極的な広報活動により認知度が上がったことで、早期に入学定員を確保することができました。
- ・受験対象者へのアプローチ手段として、SNS での発信を積極的に展開するため、外部講師による SD 研修を行い、教職員の広報スキルの向上を図りました。
- ・SD・FD 活動として、全校研修としてハラスメント防止研修を受講したほか、学科ごとの学校協会教員研修会の受講による教員力の強化を図り、管理職については校外研修会のオンデマンド受講を行いました。
- ・理学療法学科の助手 2 名が養成施設専任教員講習会の受講により教員資格の認定を受けました。
- ・別館校舎のトイレ及びエレベータ設備の改修を行いました。

カ. 将来構想

- ・月例の将来構想検討委員会において、次の事項を継続して検討しています。
 - 柔道整復学科及び東洋医療鍼灸学科の生徒募集及び学科の再編に関する検討
 - あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の養成について、現在の 2 学科で行うか、または 1 学科に再編するかを検討
 - 安定した財務の基盤のうえに養成教育を実施するため、学費の見直しに関する検討
- ・生徒募集について校友会組織との連携を図るため、数回にわたり情報交換会を開催しました。
- ・理学療法学科助手 2 名が養成施設専任教員講習会を受講し、教員資格の認定を受けました。
- ・歯科衛生学科の完成年次に向け、2023 年度に専任教員として歯科衛生士 1 名を任用しました。
- ・歯科衛生士専任教員として、2025 年度に歯科衛生士 1 名の採用を内定しました。
- ・新学科の構想について、既設学科の再編検討と並行して、数件の案を将来構想検討委員会に回議しています。

(7) 専門学校中期計画の進捗状況評価

<評価基準>

- S評価: 計画を大幅に上回って達成している。(100%以上)
- A評価: 計画を達成している。(90~99%)
- B評価: 計画を概ね達成している。(80~89%)
- C評価: 計画をやや下回っており改善の必要がある。(60~79%)
- D評価: 計画を大幅に下回っており大幅な改善の必要がある。(60%未満)

〔領域1〕 専門学校(養成施設(養成所))の使命	
目標1	建学の精神を教職員・生徒及び保護者他のステークホルダーに周知する
目標2	全ての教職員が共通した認識をもって行動する
目標3	実践的職業教育を遂行するため、伝統の継承と創造する意欲を以て取り組む

〔領域1〕 進捗状況評価	
	0 50 60 70 80 90 100%
令和6年度	A
令和5年度	A

〔領域2〕 養成教育	
目標1	教育体制の充実
目標2	教育環境の整備
目標3	国家試験合格率の向上と維持

〔領域2〕 進捗状況評価	
	0 50 60 70 80 90 100%
令和6年度	C
令和5年度	A

〔領域3〕 生徒支援	
目標1	学修支援については、入学前教育を充実させ、生徒が安心して学修することができる環境を確保する
目標2	退学・休学の予防に重点を置き、保護者との緊密な連絡に努める
目標3	就職支援の向上については、求人者と求職者のニーズのマッチングに努め、細かな就職支援を行うことができるよう配慮する
目標4	生徒の資格取得(国家試験合格率)の向上を重点事項として取り組む
目標5	緊急時・災害時における教育体制の確保と授業の継続実施

〔領域3〕 進捗状況評価	
	0 50 60 70 80 90 100%
令和6年度	B
令和5年度	B

〔領域4〕 内部質保証	
目標1	内部質保証に係るシステムを確立する
目標2	第三者評価機関による評価を受審し、その結果を公表する

〔領域4〕 進捗状況評価	
	0 50 60 70 80 90 100%
令和6年度	A
令和5年度	A

〔領域5〕 管理運営	
目標1	入学志願者を確保する
目標2	安定した財政基盤の強化
目標3	教職員のスキルアップ
目標4	教育環境の整備と安全性の確保

〔領域5〕 進捗状況評価	
	0 50 60 70 80 90 100%
令和6年度	C
令和5年度	C

〔領域6〕 将来構想	
目標1	学科の再編検討等
目標2	歯科衛生学科の運営・管理
目標3	安定的な経営基盤の確保のための調査・検討

〔領域6〕 進捗状況評価	
	0 50 60 70 80 90 100%
令和6年度	B
令和5年度	B

〔計画全体〕 進捗状況評価	
	0 50 60 70 80 90 100%
令和6年度	B
令和5年度	B

(8) 中期計画と事業計画項目との対比表

【大学・大学院の中期計画／アクションプラン】

【事業計画項目】

領域1 大学の使命

大目標1	小目標1	アクションプラン 1111	建学の精神を学内外に浸透させる	2. アーア)
		アクションプラン 1112	大学創立40周年事業を企画する	2. スーウ)
大目標2	小目標2	アクションプラン 1121	大学の意思決定のしきみを強化する	2. ス
		アクションプラン 1211	教学マネジメントのしきみを構築する	2. ス
大目標2	小目標1	アクションプラン 1212	3つのポリシーに基づく教育課程編成の点検をする	2. スーオ)

領域2 教育

大目標1	小目標1	アクションプラン 2111	学修成果の把握と可視化のしきみを確立する	2. オーイ)
		アクションプラン 2121	教員の教育成果の把握と授業改善を推進する	2. シーイ)
	アクションプラン 2122	ICTを活用した教育方法の導入を検討する	2. イーア)イ)	
	アクションプラン 2123	新規購入教材・備品を用いて学科教育の質向上を図る	2. イーア) a	
大目標2	小目標3	アクションプラン 2131	教育課程編成の見直しと改定を行う	2. イーア) a b c d
		アクションプラン 2211	施設・設備の修繕・改装等を行う	2. コ
	小目標2	アクションプラン 2212	節電・省エネ対策を推進する	
		アクションプラン 2221	図書館の機能拡充を推進する	2. ク
大目標3	小目標1	アクションプラン 2222	図書館の蔵書管理計画を策定する	2. ク
		アクションプラン 2223	ICT教育を行う環境を構築する	2. コ
大目標3	小目標1	アクションプラン 2311	教学IRデータの収集・分析力を高める	2. スーイ)
大目標4	小目標1	アクションプラン 2411	学年歴の柔軟な編成を検討する	2. ウ

領域3 学生支援

大目標1	小目標1	アクションプラン 3111	学生の学修行動の実態を把握する	2. イーア)イ)
		アクションプラン 3112	入学前教育を充実させる	
		アクションプラン 3113	学部、学科間の教育交流を推進する	
		アクションプラン 3114	リメディアル教育を充実させる	
		アクションプラン 3115	教育研究・学修支援センターを設置する	2. オーウ)
大目標2	小目標2	アクションプラン 3121	医療資格の国家試験合格率を向上させる	2. イーア)イ)
		アクションプラン 3122	付加資格の試験合格率を向上させる	2. イーア)
		アクションプラン 3131	DXを目指した学修プログラムを構築する	2. イーイ)
大目標2	小目標1	アクションプラン 3211	退学・休学の予防対策を推進する	2. イ、カ、キ
大目標3	小目標1	アクションプラン 3311	キャリア支援イベントを充実する	2. キーイ)
		アクションプラン 3312	学生、大学、求人施設間のネットワークを強化する	2. キーウ)
		アクションプラン 3313	医療職以外への就職希望者に対応する	2. キーア)

領域4 研究

大目標1	小目標1	アクションプラン 4111	研究倫理教育を推進する	2. ケーイ)
		アクションプラン 4112	研究不正防止コンプライアンスを強化する	2. ケーイ)
		アクションプラン 4113	競争的資金の獲得を推進する	2. ケーオ)
大目標2	小目標2	アクションプラン 4121	特殊医療分野の研究センターを設置する	
		アクションプラン 4211	学部教育との接続を強化する	2. イーウ)
	小目標2	アクションプラン 4221	リカレント教育の学費軽減を検討する	2. カーソ)
		アクションプラン 4222	リカレント教育の授業形態を検討する	2. イーウ)
大目標2	小目標3	アクションプラン 4231	大学院博士後期課程の設置計画を履行する	2. エ

領域5 管理運営

大目標1	小目標1	アクションプラン 5111	募集力強化の取組みを推進する	2. アーア)
		アクションプラン 5113	入試制度を改革する	2. アーイ)
		アクションプラン 5114	高校訪問及びオープンキャンパス等の広報活動の強化を図り志願者増につなげる	2. アーア)
大目標2	小目標2	アクションプラン 5121	収容定員を適正に維持する	2. アーア)
		アクションプラン 5131	寄附金の獲得を推進する	
		アクションプラン 5211	外部研修会等への参加を推進する	2. シーア)
大目標2	小目標1	アクションプラン 5212	担当業務に関連する資格取得を推進する	2. シーア)
		アクションプラン 5213	SD活動を推進する	2. シーア)
	小目標2	アクションプラン 5221	労働時間の適正化を推進する	
		アクションプラン 5311	自然災害への備えを推進する	
大目標3	小目標1	アクションプラン 5312	防災・避難訓練を推進する	
		アクションプラン 5321	個人情報保護の保護体制を強化する	
大目標4	小目標1	アクションプラン 5411	基幹教員制度を導入する	2. ウ

領域6 社会貢献

大目標1	小目標1	アクションプラン 6111	高大連携事業を推進する	
		アクションプラン 6121	地域における交流行事を継続する	2. チーア)
大目標2	小目標1	アクションプラン 6211	附属保健医療施設の運営を点検し改革を推進する	3. (1) (2) (3) (4) (5)

領域7 内部質保証

大目標1	小目標1	アクションプラン 7111	自律的なPDCAサイクルを機能させる	2. サ、タ
		アクションプラン 7121	日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審する	2. サ
		アクションプラン 7122	リハビリテーション教育評価機構による評価を受審する	2. サ

【専門学校の中期計画】

【事業計画項目】

領域1 専門学校(養成施設(養成所))の使命

目標1	建学の精神を教職員・生徒及び保護者他のステークホルダーに周知する	4. (1) イ, ウ
目標2	全ての教職員が共通した認識をもって行動する	4. (1) ウ, オ
目標3	実践的職業教育を遂行するため、伝統の継承と創造する意欲を以て取り組む	4. (1) ウ, オ

領域2 養成教育

目標1	教育体制の充実	4. (1) ウ, エ, カ, キ
目標2	教育環境の整備	4. (4) イ
目標3	国家試験合格率の向上と維持	4. (1) ウ, カ, キ

領域3 生徒支援

目標1	学修支援については、入学前教育を充実させ、生徒が安心して学修することができる環境を確保する	4. (1) オ, (クーア)イ)ウ)オ) 4. (3) イ
目標2	退学・休学の予防に重点を置き、保護者との緊密な連絡に努める	4. (1) イーア)イ)ウ) ウ, エ, クーオ)
目標3	就職支援の向上については、求人者と求職者のニーズのマッチングに努め、細かな就職支援を行うことができるよう配慮する	4. (1) クーカ)
目標4	生徒の資格取得(国家試験合格率)の向上を重点事項として取り組む	4. (1) ウ, カ, キ, クーオ)
目標5	緊急時・災害時における教育体制の確保と授業の継続実施	

領域4 内部質保証

目標1	内部質保証に係るシステムを確立する	4. (1) イーア)
目標2	第三者評価機関による評価を受審し、その結果を公表する	4. (1) イーイ)

領域5 管理運営

目標1	入学志願者を確保する	4. (2) ア, イ
目標2	安定した財政基盤の強化	4. (1) (クーア)ウ), (3)ウ
目標3	教職員のスキルアップ	4. (1) ウ, エ, オ, カ, キ
目標4	教育環境の整備と安全性の確保	4. (4) イ

領域6 将来構想

目標1	学科の再編検討等	4. (1) ア, イーア)ウ)
目標2	歯科衛生学科の運営・管理	4. (1) ア, イーア)ウ)
目標3	安定的な経営基盤の確保のための調査・検討	4. (1) ア, イーア)イ)ウ)

6. 学生の応募状況

学部、学科（入学定員）		区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
関西医療大学	保健医療学部	はり灸・スポーツトレーナー学科（50名）	志願者数	166名	131名	128名	80名	111名
			入学者数	54名	42名	50名	45名	53名
		理学療法学科（60名）	志願者数	493名	416名	376名	254名	291名
			入学者数	66名	65名	67名	65名	66名
		作業療法学科（40名）	志願者数	264名	185名	186名	103名	142名
			入学者数	30名	30名	41名	22名	40名
	ヘルスプロモーション 整復学科（40名）	志願者数	73名	54名	48名	33名	55名	
		入学者数	24名	29名	23名	19名	33名	
	臨床検査学科（60名）	志願者数	474名	472名	289名	245名	272名	
		入学者数	61名	70名	66名	68名	67名	
	保健看護学部	保健看護学科（90名）	志願者数	1,081名	771名	576名	501名	517名
			入学者数	105名	106名	101名	100名	103名
	小計（340名）		志願者数	2,551名	2,029名	1,603名	1,216名	1,388名
			入学者数	340名	342名	348名	319名	362名
	大学院	修士課程（9名）	志願者数	14名	7名	13名	13名	13名
			入学者数	13名	7名	13名	11名	12名
博士後期課程（3名）		志願者数	—	—	—	4名	4名	
		入学者数	—	—	—	4名	4名	
合計（352名）		志願者数	2,565名	2,036名	1,616名	1,233名	1,405名	
		入学者数	353名	349名	361名	334名	378名	
関西医療学園専門学校	東洋医療学科（30名）	志願者数	95名	72名	49名	47名	45名	
		入学者数	30名	30名	30名	29名	30名	
	東洋医療鍼灸学科（30名）	志願者数	46名	41名	29名	24名	27名	
		入学者数	23名	28名	21名	17名	16名	
	柔道整復学科（60名） （令和6年度から入学定員30名）	志願者数	32名	20名	17名	31名	28名	
		入学者数	29名	18名	15名	26名	27名	
	理学療法学科（40名）	志願者数	106名	80名	102名	67名	52名	
		入学者数	40名	40名	40名	40名	40名	
	歯科衛生学科（50名）	志願者数	—	46名	49名	51名	67名	
		入学者数	—	38名	42名	50名	50名	
	合計（210名） （令和6年度から入学定員180名）		志願者数	279名	259名	246名	220名	219名
			入学者数	122名	154名	148名	162名	163名
総計（562名） （令和6年度から入学定員532名）		志願者数	2,844名	2,295名	1,862名	1,453名	1,624名	
		入学者数	475名	503名	509名	496名	541名	

※大学、専門学校の志願者数は重複志望を含みます。

※大学の集計には第2・3志望の人数を含みます。

同一試験区分において同一日に複数方式を併願した者は一人でカウントしています。

7. 過去3年間の国家試験の合格者状況

学 科		年 度	資 格	卒業者数	受験者数	合格者数	合 格 率	
関 西 医 療 大 学	はり灸・ スポーツトレーナー学科	令和4年度	はり師	34名	29名	28名	96.6%	
			きゅう師			28名	96.6%	
		令和5年度	はり師	31名	29名	25名	86.2%	
			きゅう師			26名	89.7%	
		令和6年度	はり師	38名	33名	28名	84.8%	
			きゅう師			29名	87.9%	
	理学療法学科	令和4年度	理学療法士	56名	56名	53名	94.6%	
		令和5年度		63名	63名	63名	100.0%	
		令和6年度		57名	57名	57名	100.0%	
	作業療法学科	令和4年度	作業療法士	40名	40名	40名	100.0%	
		令和5年度		33名	33名	33名	100.0%	
		令和6年度		31名	31名	30名	96.8%	
	ヘルスプロモーション 整復学科	令和4年度	柔道整復師	32名	29名	24名	82.8%	
		令和5年度		29名	26名	23名	88.5%	
		令和6年度		20名	15名	8名	53.3%	
	臨床検査学科	令和4年度	臨床検査技師	65名	65名	65名	100.0%	
		令和5年度		57名	56名	55名	98.2%	
		令和6年度		58名	56名	56名	100.0%	
	保健看護学科	令和4年度	看護師	97名	97名	93名	95.9%	
			保健師			15名	15名	100.0%
			助産師			5名	5名	100.0%
		令和5年度	看護師	91名	91名	91名	94.5%	
			保健師			15名	15名	100.0%
			助産師			5名	5名	100.0%
令和6年度		看護師	101名	101名	101名	100.0%		
		保健師			14名	14名	100.0%	
		助産師			5名	5名	100.0%	

学 科		年 度	資 格	卒業者数	受験者数	合格者数	合格率
関 西 医 療 学 園 専 門 学 校	東洋医療学科	令和4年度	あん摩 マッサージ指圧師	26名	25名	25名	100.0%
			はり師			23名	92.0%
			きゆう師			23名	92.0%
		令和5年度	あん摩 マッサージ指圧師	26名	24名	24名	100.0%
			はり師			21名	87.5%
			きゆう師			21名	87.5%
		令和6年度	あん摩 マッサージ指圧師	26名	26名	26名	100.0%
			はり師			25名	96.2%
			きゆう師			25名	96.2%
	東洋医療 鍼灸学科	令和4年度	はり師	19名	18名	16名	88.9%
			きゆう師			15名	83.3%
		令和5年度	はり師	19名	19名	17名	89.5%
			きゆう師			17名	89.5%
		令和6年度	はり師	20名	20名	18名	90.0%
			きゆう師			19名	95.0%
	柔道整復学科	令和4年度	柔道整復師	22名	22名	14名	63.6%
		令和5年度		21名	15名	15名	100.0%
		令和6年度		10名	10名	2名	20.0%
	理学療法学科	令和4年度	理学療法士	26名	26名	25名	96.2%
		令和5年度		35名	35名	34名	97.1%
		令和6年度		31名	31名	30名	96.8%
歯科衛生学科		歯科衛生士					
	令和6年度		24名	24名	20名	83.3%	